

門 水 2
號 5317
卷

世	=	字	異	、	音	リ	こ	未	叙	今	文
眞	記	、	十	進	字	第	〇	論	べ	=	字
蒙	載	階	ル	路	十	一	蓋	七	シ	埃	字
古	ヲ	叙	=	十	リ	無	草	十	ト	及	、
ノ	要	ヲ	由	リ	此	文	昧	ル	言	波	沿
木	ス	以	リ	然	、	第	ノ	所	ヒ	斯	革
ヲ	ル	テ	其	レ	五	二	俗	十	シ	、	
刻	心	開	ノ	氏	級	畫	ヨ	レ	ト		
ミ	ハ	明	發	土	ハ	文	リ	バ	雖	古	
テ	ル	ノ	達	言	人	第	字	諸	モ	文	
約	ハ	度	ノ	方	類	三	母	フ	文	ヲ	
束	夷	ヲ	達	言	、	畫	、	更	字	畧	
ヲ	狄	測	速	、	字	制	ニ	古	發	陳	
成	、	ル	難	齊	天	第	至	今	達	ニ	
ニ	土	可	易	ニ	然	四	ニ	文	、	次	
北	俗	カ	モ	カ	=	成	ル	文	次	=	那
米	=	カ	亦	カ	從	音	ニ	字	序	專	珂
土	徵	ス	一	ス	ヒ	字	テ	、	、	、	通
番	ニ	〇	十	風	テ	第	其	沿	如	字	世
ノ	テ	無	ヲ	俗	開	五	ノ	革	キ	母	
人	知	文	ガ	地	明	字	階	ヲ	ハ	、	
ト	ル	、	レ	勢	=	母	級	概	前	沿	
大	可	世	ハ	、	赴	即	五	論	文	革	
事	ニ	既	文	相	ク	原	、	セ	、	ヲ	



山下重民纂



第
後山書屋

早稲田大學圖書館
昭 34.4.22 受
藏 書

似	丁	三	テ	異	父	十	戸	借	知	畫	ラ
夕	疑	ガ	用	十	音	リ	ノ	=	ル	文	ガ
ル	ヒ	ヲ	法	ヲ	=	又	戸	類	可	ヨ	ヲ
ハ	無	シ	益	ス	用	ア	ヲ	ス	レ	リ	シ
方	顔	〇	硬	僧	井	ホ	表	ル	又	出	〇
ノ	楔	モ	リ	文	ノ	ム	ス	者	一	テ	靈
器	形	埃	キ	文	類	ノ	如	リ	ノ	ル	篆
ヲ	ハ	及	コ	又	ハ	形	シ	之	形	ノ	形
以	本	文	フ	其	其	ヲ	是	ヲ	ハ	古	支
粘	物	終	ツ	字	ハ	音	二	邦	テ	同	那
土	ノ	二	夕	教	象	二	以	譬	ノ	名	ノ
=	象	紙	教	下	形	用	以	譬	ノ	名	文
印	十	全	徒	字	十	用	テ	ハ	他	々	文
シ	ト	十	ヲ	畫	レ	テ	成	ハ	他	々	文
テ	氏	ル	シ	ト	氏	ボ	音	砒	ノ	物	彩
之	其	原	テ	ヲ	其	獅	字	ノ	形	ヲ	畫
ヲ	ノ	音	字	減	ノ	子	ノ	用	ヲ	表	二
燒	皆	字	ヲ	ス	音	ノ	形	ヲ	摸	シ	伴
キ	楔	ト	希	ル	ハ	形	ヲ	十	シ	テ	フ
タ	鏃	十	矚	=	字	ヲ	十	セ	ル	ヲ	觀
ル	等	ヲ	=	及	母	ヲ	セ	ル	テ	門	テ
=	=	シ	假	ヒ	=	ノ	ル	門	假	テ	テ

第
後山書屋

ノ	表	藝	ル	意	テ	テ	ノ	リ	ハ	ル	ヲ
國	ヤ	皆	者	解	直	開	帝	テ	其	所	議
ヲ	ル	此	ヲ	ス	=	化	國	ノ	ノ	枚	ス
剿	カ	ノ	リ	可	思	セ	ノ	ノ	國	擧	レ
滅	如	文	其	ク	想	ル	隆	意	人	ス	ハ
ス	キ	十	ノ	レ	ヲ	者	盛	義	五	ル	貝
ル	既	リ	最	テ	寫	ト	ノ	ヲ	彩	=	珠
ノ	=	且	著	音	ス	調	ル	達	ノ	違	ヲ
無	畫	庶	シ	讀	者	フ	ノ	以	繩	ヲ	與
カ	字	物	ノ	ス	=	可	墨	通	結	ヲ	ハ
リ	ノ	ノ	者	カ	テ	キ	西	信	ビ	西	記
セ	体	形	ハ	テ	言	〇	哥	計	其	班	ト
ハ	=	ヲ	墨	ス	語	畫	=	算	ノ	牙	ヤ
此	近	以	西	世	=	文	亞	ノ	色	人	シ
ノ	ツ	テ	哥	界	配	ハ	ガ	用	ト	ノ	シ
文	キ	人	ノ	ノ	ス	簡	リ	ヲ	數	ノ	ル
ノ	夕	物	古	ノ	諸	畧	ト	十	ト	白	ル
發	リ	都	文	諸	番	ノ	云	セ	結	露	カ
達	西	邑	ニ	間	間	畫	フ	リ	ビ	ヲ	如
心	班	歲	シ	之	之	圖	是	當	保	發	キ
斯	丹	時	テ	ヲ	用	ヲ	無	時	ト	見	史
=	人	ノ	火	用	開	列	文	印	ト	ヤ	ノ
止	ノ	名	記	開	子	子	ニ	嚙	由	ニ	傳
マ	其	ヲ	學	開	子	子	ニ	嚙	由	ニ	傳

里	希	尼	ア	セ	レ	ニ	ニ	タ	シ	ノ	ノ
亜	伯	西	レ	ル	ス	ア	取	リ	テ	字	大
文	來	亞	ハ	痕	巨	リ	レ	ト	キ	ハ	障
ハ	叙	文	其	跡	ト	字	リ	雖	ク	反	礙
基	里	ノ	ノ	ヲ	名	ノ	閃	史	ケ	音	ナ
督	亜	天	種	現	ツ	名	的	傳	コ	ヲ	リ
ノ	亜	下	子	セ	ク	ベ	文	マ	ノ	主	〇
後	刺	=	ヲ	リ	ル	ノ	ノ	諸	ト	閃	閃
第	五	伯	普	隣	ノ	父	最	音	ニ	的	的
百	年	三	洽	國	類	音	古	ヨ	テ	旗	旗
ノ	ノ	種	ス	=	ト	ヲ	キ	以	用	ノ	ノ
頃	ノ	閃	レ	取	形	ベ	者	來	#	古	古
子	的	其	ル	=	ト	ス	非	世	シ	文	文
ス	文	ノ	モ	隆	見	ト	尼	過	此	ハ	成
ト	皆	盛	亦	盛	ル	名	西	半	ノ	成	音
リ	其	十	知	ノ	=	ツ	亞	ノ	法	字	ノ
三	ノ	ル	ル	國	亦	ケ	ニ	文	奇	一	一
後	教	支	實	可	畫	ダ	レ	字	ニ	種	種
山	徒	流	=	カ	字	ノ	テ	實	シ	ニ	ニ
書	ノ	こ	驚	ヲ	ヨ	父	字	=	テ	カ	カ
屋	煤	シ	ク	ス	リ	音	數	源	迂	の	の
ニ	由	テ	可	〇	倫	ヲ	二	ヲ	=	字	ニ
		叙	レ	非	生	カ	十	斯	似	ニ	其

狹	不	ハ	國	ク	利	被	我	過	ノ	ノ	書
シ	幸	愛	ノ	ル	用	レ	カ	ク	最	文	ヲ
學	十	化	博	者	大	=	口	ル	著	字	見
者	リ	自	士	ホ	=	愈	音	者	シ	ヲ	テ
通	成	在	ホ	カ	現	レ	ノ	ヲ	キ	作	始
用	音	ノ	イ	ヲ	レ	ル	圓	リ	者	レ	メ
ノ	字	言	ト	ス	ス	ガ	滑	是	コ	ル	テ
文	ノ	語	不	其	其	為	簡	我	シ	ハ	世
体	便	ニ	ノ	得	ノ	十	短	カ	テ	即	=
ハ	ニ	シ	ノ	失	ハ	然	ニ	祖	其	成	文
世	シ	テ	語	ハ	今	レ	テ	先	製	音	字
界	テ	文	ヲ	今	詳	氏	言	漢	漢	字	ナ
ノ	行	字	ヲ	論	生	漢	語	人	字	ナ	者
最	フ	ヲ	テ	ス	ヲ	字	ノ	ヨ	本	我	ヲ
賤	可	支	其	ル	害	世	活	リ	ツ	カ	ル
劣	キ	那	=	當	ニ	=	動	智	ク	國	ヲ
ナ	者	假	ヲ	否	追	教	行	十	ト	ノ	ヲ
ル	ア	ル	ク	ヲ	マ	育	ハ	ル	雖	い	知
者	レ	ク	日	質	ヲ	ノ	シ	ウ	モ	ろ	リ
ニ	其	用	本	サ	ス	普	テ	故	其	は	自
テ	用	ハ	語	ニ	請	洽	國	ニ	便	ハ	八
教	育	甚	ノ	本	フ	妙	字	大	之	成	十
育				米			ノ	ニ	ニ	音	五

後山書屋

概	製	目	百	字	ル	父	以	ス	至	土
耳	の	的	ノ	ヲ	者	音	ハ	レ	ル	耳
的	ル	是	音	以	下	二	之	氏	マ	其
北	者	=	ヲ	テ	又	千	ヲ	皆	テ	波
二	東	於	綴	シ	語	餘	示	父	ク	斯
北	二	テ	リ	文	音	年	ス	音	ク	阿
人	並	達	數	字	ヲ	前	ノ	ヲ	之	富
及	爾	セ	萬	ト	分	許	二	主	=	汗
魯	美	リ	ノ	言	析	多	在	○	ト	温
西	尼	ト	語	語	シ	ノ	リ	非	レ	都
亞	南	謂	ヲ	ト	其	成	希	尼	テ	士
ア	二	フ	表	二	ノ	音	臘	西	母	但
リ	埃	可	シ	致	原	ヲ	人	亞	音	ヨ
テ	及	シ	テ	ア	素	表	始	文	=	諸
魯	即	希	梗	ヲ	セ	リ	メ	ノ	關	國
西	コ	臘	礎	ス	得	リ	テ	西	セ	ノ
亞	ブ	字	又	二	テ	是	母	漸	ス	文
ハ	チ	=	ル	十	之	ヲ	音	シ	或	頗
西	ク	依	ノ	餘	=	音	五	テ	ハ	其
ノ	文	リ	無	字	配	字	字	希	點	ノ
最	西	テ	シ	ヲ	ス	ノ	ヲ	臘	印	形
燕	=	國	文	以	ル	純	定	二	ノ	体
雜	羅	字	字	テ	=	全	メ	入	ノ	ヲ
句	ヲ	ノ	ノ	數	文	十	テ	リ	ヲ	=

第
後
山
書
屋

々	徒	多	察	敬	定	ツ	フ	門	キ	古	ヲ	リ
教	共	ヲ	シ	王	マ	ノ	ル	教	者	字	斯	テ
ノ	=	以	テ	四	テ	遠	ノ	ト	無	ヨ	=	天
天	之	テ	閃	十	四	カ	ニ	十	シ	リ	取	山
方	ヲ	母	的	三	百	ヲ	=	レ	蓋	出	リ	葱
=	用	音	文	年	七	ス	シ	ル	秋	夕	テ	嶺
興	ト	ヲ	ノ	ト	十	五	テ	ハ	教	リ	新	ノ
ル	テ	明	一	ス	七	百	之	三	ノ	東	字	際
=	亞	不	變	年	四	入	ヲ	千	東	以	ヲ	=
及	細	シ	ヤ	即	十	報	書	年	波	蘭	製	行
ビ	亞	其	ル	周	三	ノ	=	前	斯	文	シ	ハ
テ	諸	用	者	ノ	年	年	筆	二	=	及	今	レ
亞	部	原	下	西	ト	ハ	ヤ	リ	ハ	文	滿	カ
刺	及	音	ス	人	十	南	ハ	ト	シ	洲	宋	木
伯	南	字	梵	其	氏	度	釋	雖	微	起	東	=
文	洋	二	字	ノ	西	人	教	皆	陀	原	西	至
ノ	諸	異	殊	形	人	傳	宣	口	陀	ハ	伯	リ
傳	島	十	=	ト	群	ハ	布	語	ノ	史	里	ノ
播	=	ろ	善	用	書	テ	ノ	ヲ	變	ノ	ノ	蒙
甚	波	ス	美	ヲ	法	ヲ	時	以	シ	ノ	文	古
速	及	婆	ヲ	法	ト	比	先	テ	テ	ノ	字	人
=	セ	羅	盡	ヲ	ノ	較	ノ	相	波	又	又	模
シ	リ	門	之	ヲ	ノ	ノ	ノ	傳	羅	ノ	蒙	範
テ	回	釋	磨	究	之	前	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ

ナル者ナリ羅馬ノ西土ヲ奄有シタリシヨリ以來羅甸字	ノ傳播最廣ク阿太臘洋ノ東西ニ列スル文明諸國 <small>（魯西其</small>	外ヲ用井サレ者無シ蠻貊ノ民ニ至ルマテ白人ノ風化ヲ	受ケテ之ヲ學ブ者亦カラス今且各國ノ字數ヲ擧ケテ之	ニ附セシトシ英吉利日耳曼及其他日耳曼語ノ諸國皆	甸二十六佛蘭西二十五西班牙二十七伊太里二十ニシテ羅	西亞ニ同シ亞刺伯二十八波斯三十二土耳其三十三梵字	五十此等ノ文字皆亞細亞ニ淵源スト雖今五洲各國凡文	字アルノ民東洋ノ三四國ヲ除ク外之ヲ用井ガレ者ナ	シ文字發達ノ勢實ニ人智ノ能ク測度スル所ニ非サレ者	マリト謂フベシ
--------------------------	---	--------------------------	--------------------------	-------------------------	---------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	---------

文字

凡の古來ヨリ人間要用ノ發明多シト雖凡ノ智識ヲ開キ
 今利用ヲ達スル文字ノ創作ニ如ク者ナシ亞細亞的ハ墨
 尼斯ノ子ニシテ埃及ノ人ナリ此人即蘇生茶ハ千八百二十
 年 我報元茶一千 頃初テ象形ノ字ヲ造リ是ヲ以テ埃及
 四百六十二年 列ノ後長ハ謂ハシク象形字ハ亞當
 ノ火ヲ記セリト約瑟（上古ノ以色ハ謂ハシク象形字ハ亞當
 子設得ノ作ル所ナリト此ニ説ハ共ニ太古茫昧ノ時ノ事ナレハ
 孰シヲ信ナリト定ル能ハス方今文字ノ祖ハ蓋ニ腓尼基ニ在リ
 テ希伯來ノ文字ノ如キハ亦腓尼基ヨリ出タル者ナリ耶
 蘇生茶一千四百九十三年加達慕斯ト云フ者如テ希伯

來ノ文字ヲ希臘ニ傳フ其時ノ文字ハ其數十五ニシテ其形左ノ如シ

A B Γ Δ I K Λ M N O Π P Σ T I

此文字ハ希伯來腓尼基亞述等ノ文字ヨリ來レル者ニシテ漸ク變化シテ今日歐羅巴諸國ニ用ルル所ノ羅馬文字ト為リタル者ナリ
西格塔シグタ 巴格特バグテ ④ X 等ノ複字ヲ作ルル所蘇生第百八十九軍蘇德天皇 西曆年 得之ニ乙出五シ 四字ヲ加フ 日ノ字ヲ作りシハ何レノ時ニ在リシカ今之ヲ知ルル能ハス同三百九十九軍孝昭天皇 西曆年 希臘ノ文字ハ其數十六ニ過キガリシガ以阿尼アヘイ ニテハ巴

二十四ノ文字ヲ用ヒタリ、諸國ニテ用ルル文字ノ數ハ左ノ如シ

英吉利 二十六 法蘭西 二十三 意大利 二十

西班牙 二十七 日耳曼 二十六 斯哥拉窩尼 二十七

魯西瓦 四十一 拉丁 二十二 希臘 二十四

希伯來 二十二 亞刺伯 二十八 波斯 二十二

土耳其 二十三 桑斯克立 五十

算數字

文字ノ創造以後其中ニ在ル工口又等ノ文字ヲ取リ是ヲ算數ノ文字ト定メ名ナシ羅馬數字ト云フ方今用ルル所ノ亞刺伯數字ト稱スル〇 一 二 三 等ノ字ハ原來希臘

字、轉訛レタル者ナリ或人曰ク此字ハ第十三期、始、柳
合手爾知喃捺士ト云フ者、意、太利、於テ之ヲ造レリト一説
曰ク教王施爾威的第十二、第十期、末、之ヲ造レリト又一
説ハ西班牙王西豐、ヤ模、ノ創、換、セシ所ナリト云フ、亦、孰
カ是ナレリヲ知ラズ

算術符號

凡、隱語、符號ヲ用ニス、古代ヨリ、事、コレテ羅馬語、之ヲリテ、
コイカイト云フ、愷撒及、奧古士都、ハ之ヲ書翰ニ用ヒタリシカ、其後僧
帖利、約、綴、ト云フ者、其符號、規則ヲ定メ、後、世、至リ、所謂算數、
符號、ナル者、起ル、此符號、ハ其義、隱、深、コレテ、若シ是カ、註解ヲ得

サレハ、亦、シモ、其、意味ヲ、解、スル、能ハ、ザル、者、ナリ

書法

上古ノ文字、ハ、物、形、ニ、象、リ、テ、之ヲ、作、リ、シ、者、コレ、所謂、象、形
ノ、文字、是、ナリ、標、音、ノ、文字、ハ、亦、起、ル、ガ、ル、以、テ、亦、ハ、皆、此、象、形
ノ、字、ヲ、用、ヒ、シ、者、ナリ、東、國、ノ、民、ノ、書、法、ハ、西、國、ノ、民、ノ、書、法、ニ、異、コ、シ
テ、方、方、ヨリ、起、リ、左、方、ニ、行、ク、ヲ、常、ト、ス、古、代、ノ、希、臘、ノ、民、ノ、書、法
ハ、初、メ、一、行、ヲ、書、シ、第、二、行、ノ、首、ヲ、以、テ、第、一、行、ノ、尾、ニ、接、シ、行、ハ
相、兼、ケ、テ、一、ハ、左、ニ、一、ハ、右、ニ、行、キ、互、ニ、往、返、シ、テ、終、尾、ニ、至、ル、者、
リ、又、上、古、ノ、民、ノ、書、法、ハ、中、ニ、方、分、ク、支、那、人、ノ、書、法、ハ、如、ク、上、ヨリ
下、ニ、向、ヒ、行、ク、相、列、ス、ル、者、ナリ

文字ヲ書ク所ノ料ハ古來ヨリ其種類一ナラス埃及人ハハ
 ニス樹ノ葉ヲ製シテ其面ニ書シ又他ノ國民ノ中ニ獸皮面
 ニ書ス者アリ所謂羔皮紙ハ是ヲ轉セシ者ナリ希臘人羅
 馬人ハ樹皮ヲ製シテ之ヲ用フ日用ノ料ハ薄キ木片ニ蠟ヲ塗
 リタル物ニテ尖銳ナル鐵筆ヲ以テ文字ヲ其上ニ刻ス鐵筆ノ一端
 ニハ小ナル卑頭ヲ具シ既ニ書シタル文字ノ上ヲ滑カシテ之ヲ滑
 去スノ用ニ供ス樹皮或ハ羔皮紙ノ面ニ字ヲ書スハ小ナル段
 著ノ類ヲ色染セハ液ニ蘸シテ之ヲ用フ鳥翅ノ管ヲ用ヒシト
 ノ始メハ蓋シ第六七期ノ時ニ在リ古代ヨリ己ニ羽管ヲ用ヒタ
 云フ說マレトモ詳ニ其始ヲ証セザレハ之ヲ信用シ難シトス一千八

百年 寛政十一年 始ニ至リ金類ノ筆世ニ常用セラレシニ由リ
 羽筆ノ用大ニ衰フ鐵筆ハ千七百年代ノ中葉 實延宝 迄漸
 西人西爾登ノ創造スル所ニシテ其後英吉利人彼哩之ヲ改
 進シテ完全ニ至ラシメタル者ナリ

速書法

講師ノ講談ヲ聽ク者其法ヲ記錄スルカ爲ニ世間易ナル標
 識ヲ作りテ文字ヲ代フルハ古ヨリ已ニ之アリ羅馬ノ西塞
 魯カ加底抄ノ謀叛ノ時標識ヲ用ヒテ談話ヲ記錄
 セシト云フハ此時已ニ速書法ノ類ナル證トスベシ

〔西村茂樹編曾在西國事物紀原〕

此の書は、
 漢文の
 源流を
 考へて
 撰ばれり
 といふ事
 あり

あ

し	考	或	阿	世	ハ	ハ	と	如	國	と	得
安	く	由	ヤ	假	全	故	と	く	語	元	し
心	又	イ	所	破	く	子	叙	全	と	來	こ
等	安	等	子	の	借	字	詞	以	綴	其	と
の	以	の	作	起	音	の	宣	音	り	語	は
類	等	省	り	ち	字	同	命	連	し	と	太
と	の	文	伊	所	子	古	古	者	と	同	子
書	字	と	と	な	て	款	事	趣	も	く	階
ヤ	用	用	伊	り	書	等	更	長	首	ヤ	帝
し	用	あ	子	其	る	ハ	更	長	り	さ	子
ら	あ	て	作	始	こ	其	長	と	け	る	遺
逐	し	よ	る	ハ	ヤ	語	と	其	こ	る	れ
子	使	り	ハ	楷	古	の	其	類	と	以	る
流	子	片	如	體	事	違	類	を	古	て	書
れ	從	假	子	子	記	え	を	厭	事	只	み
て	ひ	字	竟	阿	百	章	さ	ら	記	其	て
あ	て	此	子	伊	葉	と	ら	人	の	字	と
い	と	子	其	等	集	な	ふ	と	序	と	と
ふ	れ	真	旁	子	の	款	と	と	子	假	り
り	と	以	と	寫	如	子	と	と	へ	し	然
終	草	の	省	し	し	至	欲	す	し	然	れ
子	體	と	さ	し	是	り	す	る	し	れ	と
あ	と	假	ア	と	後	て	る	る	し	我	と

第
 後山書屋

必	阿	五	と	の	と	を	結	ら	曷	外
始	直	年	と	漢	所	り	ひ	以	國	人
ふ	政	秋	其	文	る	し	て	智	の	の
れ	亦	八	頃	の	ハ	ふ	韓	天	來	來
と	能	月	未	詔	前	ろ	國	日	る	る
文	讀	壬	學	と	漢	ハ	子	檀	あ	れ
字	典	戌	習	同	書	し	徃	來	れ	と
と	經	朔	の	し	の	然	來	を	と	未
用	即	丁	法	く	語	れ	海	こ	若	な
あ	太	卯	あ	信	と	と	と	多	し	其
事	子	百	ら	を	填	書	紀	く	氣	頃
と	菟	濟	さ	ハ	め	子	封	な	長	ハ
通	道	王	り	か	た	封	重	り	足	韓
え	雜	遣	し	く	る	重	空	て	煖	國
海	即	阿	ふ	以	ハ	の	府	よ	尊	の
と	師	直	り	縱	子	子	庫	り	の	新
此	馬	政	書	當	し	て	收	差	文	羅
頃	と	貢	紀	時	文	例	圖	文	字	と
より	これ	良	應	文	字	の	籍	字	と	傳
較	經	馬	神	活	と	神	武	紀	蘇	那
自	典	二	天	り	武	紀	文	蘇	那	蘇
由	を	匹	皇	と	紀	文	蘇	那	蘇	那
と	讀	云	紀	十	十	十	十	十	十	十

此の書は、
 漢文の
 源流を
 考へて
 撰ばれり
 といふ事
 あり

餘其間

知	才	不	礼	伊	礼	衣	阿	の	し	七
奈	九	誤	ハ	波	波	可	行	如	例	一
眼	卷	最	是	祿	衣	多	不	し	最	一
欠	不	母	系	市	美	岐	不	而	多	石
字	り	卷	第	混	美	須	可	こ	し	射
知	字	等	四	用	也	互	氣	と	て	但
那	ハ	皆	位	ヤ	未	殊	乎	著	と	ヤ
比	殊	延	子	し	古	子	又	し	れ	行
枳	子	と	屬	ら	衣	判	五	然	亦	の
其	其	通	し	と	野	然	子	れ	別	延
他	別	し	て	論	由	と	伊	ハ	用	ハ
互	な	て	ア	あ	岐	不	麻	万	ヤ	分
子	く	活	行	し	と	り	勿	葉	以	別
用	万	語	の	且	活	如	愛	集	得	し
あ	葉	子	土	要	語	く	互	子	ハ	て
と	五	用	字	と	の	見	之	安	衣	な
る	子	あ	な	二	延	の	可	見	と	子
こ	有	と	子	十	子	色	又	兒	活	混
と	可	り	と	六	用	と	佛	衣	用	を
例	倍	是	五	開	の	二	足	多	そ	ハ
と	子	衣	卷	轉	と	十	跡	利	と	か
擧	可	延	十	合	と	の	款	十	と	ら
く	倍	と	四	子	と	卷	子	四	以	さ
る	有	別	卷	本作	見	子	和	子	て	る

後山書屋

葉	何	紀	確	瑤	な	第	倍	同	都	轉	以	那
一	集	り	畧	破	り	八	理	卷	伊	最	て	佐
射	是	伊	而	又	開	子	子	母	母	射	能	能
良	亦	比	根	其	轉	作	伊	知	四	百	夜	夜
龜	日	志	伊	欵	喻	石	波	と	位	ハ	林	林
荷	ふ	施	離	と	母	伊	比	何	子	ヤ	能	能
四	と	俱	烏	日	四	ハ	母	石	屬	行	と	と
間	云	彌	利	本	位	前	登	と	し	の	所	所
伊	ハ	蟠	苔	紀	子	子	富	日	て	以	る	る
良	石	夜	毛	子	屬	い	理	本	ア	不	と	と
虞	語	と	と	ハ	ヤ	ハ	と	紀	行	と	楯	楯
の	能	と	あ	比	水	る	何	子	ふ	護	並	並
鳥	ア	り	り	苔	ハ	り	る	ハ	る	く	て	て
を	行	同	て	瑤	以	如	と	異	と	若	射	射
同	ヤ	卷	互	破	と	く	日	志	と	あ	と	と
所	行	姪	子	而	同	ア	本	都	著	れ	か	か
子	互	政	用	異	音	行	紀	カ	し	と	と	と
並	子	互	の	離	子	の	子	伊	又	伊	水	水
ハ	用	斯	石	烏	し	何	ハ	毛	中	ハ	石	石
た	の	麻	り	利	て	不	異	智	卷	豹	款	款
る	と	登	又	苔	ヤ	と	波	子	子	鏡	子	子
ハ	り	以	日	毛	行	と	比	作	伊	第	て	て
茶	又	符	本	比	の	異	茂	り	斯	六	六	六
子	万	と	紀	苔	音	ハ	等	又	都	開	開	開

金	輯	南	所	何	云	作	法	日	僧	平	
言	才	北	見	時	天	成	大	本	正	假	
唯	之	英	但	始	仁	之	師	氣	空	名	
以	後	才	大	起	二	起	作	一	海	假	平
假	源	相	女	乎	年	也	之	間	々	伊	假
字	信	遼	御	又	八	河	由	題	作	呂	字
可	僧	為	御	何	月	海	申	又	れ	波	及
奉	都	導	自	人	日	抄	傳	問	る	四	い
書	又	師	筆	所	向	枚	歟	假	所	十	万
也	勤	高	假	作	小	江	此	名	な	七	は
弘	此	名	字	哉	一	評	者	之	り	字	
法	事	清	法	答	條	を	自	起	と	の	
大	説	範	華	云	序	引	昔	當	然	起	
師	云	慶	冠	弘	言	と	傳	在	れ	る	
傳	日	祚	供	法	談	て	來	之	と	ハ	
習	本	等	養	大	之	し	和	我	其	世	
諸	國	輩	之	師	次	通	字	云	説	子	
後	者	若	被	御	問	又	於	々	確	禪	
山	誠	振	行	作	日	中	伊	伊	実	ハ	
書	雖	富	御	云	假	論	呂	呂	不	言	
屋	為	樓	八	々	字	抄	波	波	ら	小	
	如	那	講	件	手	見	本	者	ハ	贈	
	來	之	講	事	本	也	祇	弘	親	大	
	之		師	無	者						

る	と	飛	就	子
こ	り	止	て	違
と	さ	爾	い	何
論	れ	古	ハ	々
を	ハ	衣	る	ハ
待	四	太	の	上
と	十	留	み	子
さ	七	又	ふ	挙
法	字	多	り	け
ハ	子	愛	そ	こ
し	し	努	れ	る
	て	那	よ	ハ
	足	利	り	古
	れ	氣	而	書
	る	理	下	の
	々	皆	ハ	最
	我	延	日	と
	國	と	本	は
	古	同	紀	三
	より	し	竟	部
	りの	く	真	の
	音	混	歎	書
	存	用	六	中
		の	天	子
			年	
			慶	

以	明	空	ら	と	四	詩	然	依	侍	へ	此
て	や	上	え	そ	海	と	る	あ	り	さ	山
善	ら	人	又	る	の	載	子	り	し	や	と
巧	れ	傳	書	る	句	せ	假	ハ	ハ	結	き
の	し	來	滂	足	と	て	字	累	下	ひ	り
法	や	の	等	ら	引	飛	本	な	と	し	ひ
門	い	悉	の	以	さ	流	末	と	い	ま	ら
と	ふ	曇	支	と	て	馴	友	い	ハ	末	か
や	是	巖	那	い	空	道	信	ハ	ハ	の	セ
る	毗	文	後	い	海	眼	子	ハ	ハ	世	ひ
な	盧	の	亦	ふ	製	動	凌	ハ	ハ	の	て
う	舍	字	の	字	造	殖	雲	ハ	ハ	人	累
既	那	母	三	母	の	潤	集	ハ	ハ	の	い
子	鞋	と	十	母	證	慈	の	ハ	ハ	助	ハ
三	の	以	六	ハ	と	謝	仲	ハ	ハ	言	ハ
代	意	て	字	伊	ハ	字	雄	ハ	ハ	傳	ハ
寶	の	真	母	呂	然	母	王	ハ	ハ	ハ	ハ
錄	し	三	母	波	色	弘	空	ハ	ハ	ハ	ハ
天	て	東	り	と	と	三	海	ハ	ハ	ハ	ハ
兵	字	の	取	ハ	ハ	東	子	ハ	ハ	ハ	ハ
三	門	意	ハ	ハ	未	眞	贈	ハ	ハ	ハ	ハ
年	道	ハ	ハ	ハ	確	言	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
三	と	禪	是	ハ	證	演	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ

第

後山書屋

神	漢	釈	ハ	盜	弘	リ	不	句	文	密
地	語	空	た	衰	法	又	説	ハ	聖	法
祇	東	海	り	記	大	ハ	他	ド	經	之
之	漸	造	又	四	師	ヲ	中	ト	火	後
事	和	四	痿	十	作	大	在	只	書	寄
傳	字	十	假	八	作	安	此	以	經	四
去	則	七	字	反	京	寺	事	此	典	教
大	起	字	伊	切	或	護	下	一	不	法
可	于	伊	呂	義	説	余	又	事	離	文
疑	弘	呂	波	解	慈	僧	日	令	今	作
焉	法	波	云	の	覺	正	伊	講	今	イ
又	大	々	々	子	大	作	呂	而	如	口
僧	師	日	本	弘	師	ハ	有	人	四	ハ
頓	空	本	紀	仁	と	カ	三	々	句	二
阿	海	故	纂	天	京	ヨ	段	皆	ハ	ホ
の	故	上	疏	長	字	タ	段	警	ハ	ハ
高	野	古	一	年	を	レ	イ	耳	ハ	二
野	日	未	問	中	加	ハ	口	之	ハ	ホ
記	有	有	我	弘	ハ	ハ	ハ	由	ハ	ハ
と	文	文	應	法	京	モ	ホ	所	ハ	ハ
大	字	而	神	大	字	セ	ハ	傳	ハ	ハ
師	天	天	時	師	加	又	ト	聞	ハ	ハ

月十日大僧都真雅の表も所謂悲曇持字者凡聖之教
又人天之智母也所以學字相者廣生世間之庶智觀字義者
深證出世之妙智云々何是なり真言演四句伽陀四
句と謂ひ空上人の詩句と贊也しあり伽陀四句ハ空海の
遍照發揮性靈集の序の昂弟子眞濟故眠凌胡伯崇歎云説
四句演眠尼以夾聽者尽帰依と是亦上人の詩と贊也しな
り伽陀と故ふハ此二偈といひ又四句と杯ハ其數多ク四句
ふる故ふるハ此二偈といひ金剛經應化非眞分も持於此經乃至
四句偈等受持讀誦といひ翻譯名義の序も雪山大士求
半偈而施身法愛梵志敬四句折骨等の語亦四句ハ不足と稱
とる例なり若其字半ふる其數奇ふるとさハ不足と稱
ひ字を加へて誦讀も便まることあり悲曇原十二字なる

と玉玉凡凡の四字を加へし等是あり悲曇藏一曼陀羅禪
師の傳と引きて此是外道師業波跋那教婆多婆哥王足為
十四以王舌強故令王誦此字と原強古と輕もさるる為と
いへとは是亦誦讀も便ふる為あり以上授く所の撮水
ハ其學ハ家母の義と以て三乘の法と弘通し吐く所の眞
言自四句の章と成す意もて四十七字ハ句の押呂波と稱
也し子派え
又大師年譜の撮り子假字の起れるハ空海より茶と為え
へさる如しといふと假字の起れるハ空海より茶と為え
通の著れと用と多し野子或記云弘仁十年六月一日云ハ
止の古とあり野子或記云弘仁十年六月一日云ハ
大師令授與大工給印明同其夕方此眞言令忘失似賢惠大
工奉問之處實惠力十ノツキヤリヤレシニ給テ高祖御茶

第
後山書屋

子	り	御	本	天	な	ひ	宇	之	字	文	古
あ	句	時	末	正	と	又	津	之	り	し	ハ
り	の	の	引	月	つ	源	保	草	こ	て	多
じ	事	事	み	十	り	氏	物	假	こ	お	く
よ	れ	ふ	ふ	二	又	物	語	字	る	く	草
や	し	り	今	日	其	諸	讓	席	草	子	假
法	か	原	今	日	首	梅	女	詠	紙	さ	字
く	る	も	日	訪	字	子	手	紀	と	う	し
へ	ら	や	今	三	と	女	み	淑	り	あ	稱
と	人	い	麻	藏	采	手	こ	望	出	ふ	セ
よ	千	ろ	呂	院	り	せ	ま	令	て	か	し
や	紐	は	參	法	御	心	と	書	御	ら	なり
侍	万	の	御	印	茶	い	あ	眞	ら	つ	宇
る	載	連	依	次	依	れ	ら	名	人	け	津
云	と	致	伊	伊	勅	て	ぬ	序	古	下	保
く	と	あり	呂	呂	書	ふ	糸	又	今	下	物
あ	う	け	波	伊	伊	ら	と	水	注	下	語
今	け	る	若	呂	呂	ひ	人	と	題	草	真
宵	る	子	間	波	山	し	の	女	昭	紙	菊
あ	子	誰	集	山	槐	さ	云	て	子	子	め
ま	此	し	和	槐	記	う	と	と	或	人	の
ハ	次	う	致	記	記	り	と	稱	誤	の	草
子	句	心	同	名	久	ひ	云	小	貫	假	し

の	日	と	か	そ	へ	つ	い	家	隆	卿	の	家	て	こ	の	連	致	侍	り	け	る	子	
み	て	る	け	待	り	あ	は	く	あ	ま	の	藤	衣	大	進	將	監	貞	度	と	い	ふ	小
る	目	ハ	行	え	れ	し	な	り															

輕重清濁依上字平上去入依下字大江朝衡受之
 宋人見本朝文粹翻音法備於此而未盡也
 漢官嘗改授學者云五音清濁依上字四声
 韻細音依下字
 (通明寫筆)

第
 後山書屋

以論	る	の	首卷	く本	夜	の	等	へ	片	
其	若	如	釋	本	比	次	子	と	假	
始	子	く	日	本	子	叙	載	も	字	
ハ	し	序	本	引	神	る	順	空	の	五
平	て	と	記	是	の	り	順	海	下	十
假	決	り	云々	皆	社	し	然	歸	子	音
字	し	是	ふ	故	司	て	れ	朝	い	圖
片	て	悉	即	子	傳	管	と	悉	へ	諸
第	假	他	量	次	ふ	經	も	量	る	體
字	よ	十	ト	序	る	音	法	傳	ら	
何	り	二	の	と	所	義	橋	播	如	
子	移	字	工	變	の	又	顯	の	く	
て	可	の	オ	マ	五	ハ	昭	後	作	
書	る	長	音	し	十	阿	書	子	者	
ヤ	若	音	り	若	音	宇	殊	あ	ハ	
し	子	と	と	と	ハ	伊	多	る	的	
を	那	空	并	し	ハ	乎	多	へ	知	
知	以	涅	反	て	オ	衣	ま	し	る	
ら	音	槃	切	天	イ	と	ハ	そ	へ	
以	所	と	義	文	工	列	あ	ハ	か	
と	生	を	解	本	ア	ね	い	反	ら	
ハ	の	去	等	和	ナ	越	う	切	以	
ハ	篇	り	皆	名	り	後	エ	義	と	
と	子	大	今	抄	假	伊	オ	解	い	

第

後

山

書

屋

那爾彌乃	可枳久計古	羅利留礼呂	字切 字切 為與 正反 字同 輕同 重音	奈奴仁能彌	摩無美母免	婆須志曾世	阿字伊斗衣	管總音義	々々々	是亦例の秘 る事 を專 にせし 跡 ふる 一し 今 其 異 ふる 者
波比不信保	左之須世楚	摩彌牟咩毛	取 下 字 又 一 行 之 中		羅留利呂禮	耶由與衣	訶俱幾故計	所載次序	セ人	
和為有惠遠	多知津天都	阿伊鳥衣於	入 取 下 字 切		多都知土天	婆不比保遍	和字為於惠			

第 後山書屋

叙	マ	ア	ミ	サ	密	此	ハ	リ	為	名	ル
て	カ	イ	悉	り	蒙	を	此	て	り	子	恐
と	サ	ハ	墨	け	の	次	法	支	僧	轉	ら
る	と	エ	師	ら	習	序	を	那	家	ヤ	く
ハ	次	オ	の	し	ふ	セ	設	の	の	し	ハ
彼	て	ミ	作	全	ハ	ハ	け	音	為	り	天
の	天	次	れ	く	漫	中	て	を	り	知	文
出	文	て	る	密	子	古	音	傳	と	る	和
て	和	ふ	ふ	家	在	こ	を	一	疑	ハ	名
來	名	ら	ら	子	家	そ	律	々	え	か	抄
た	抄	ら	ハ	て	の	あ	セ	し	け	ら	の
る	二	反	し	漢	人	れ	ふ	所	れ	且	如
由	ハ	切	其	字	の	古	ハ	傳	と	此	く
を	羅	義	豎	音	明	ハ	ハ	あり	と	法	真
知	摩	解	行	を	め	秘	な	て	儒	を	字
ら	阿	ハ	ハ	讀	志	密	ら	こ	家	設	み
セ	可	ハ	前	ま	る	の	こ	れ	ハ	く	て
し	左	ハ	子	む	ハ	教	と	を	已	る	列
との	多	ハ	も	ハ	ハ	と	あ	教	子	こ	ね
用	那	ヤ	ハ	為	子	と	る	ハ	音	と	し
意	波	ナ	ハ	子	も	して	ハ	し	博	と	を
子	和	リ	る	さ	も	例	し	ふ	士	儒	後
て	夜	ニ	如	る	あ	の	且	と	あ	家	片
	と	ハ	く	ハ	ら					の	假

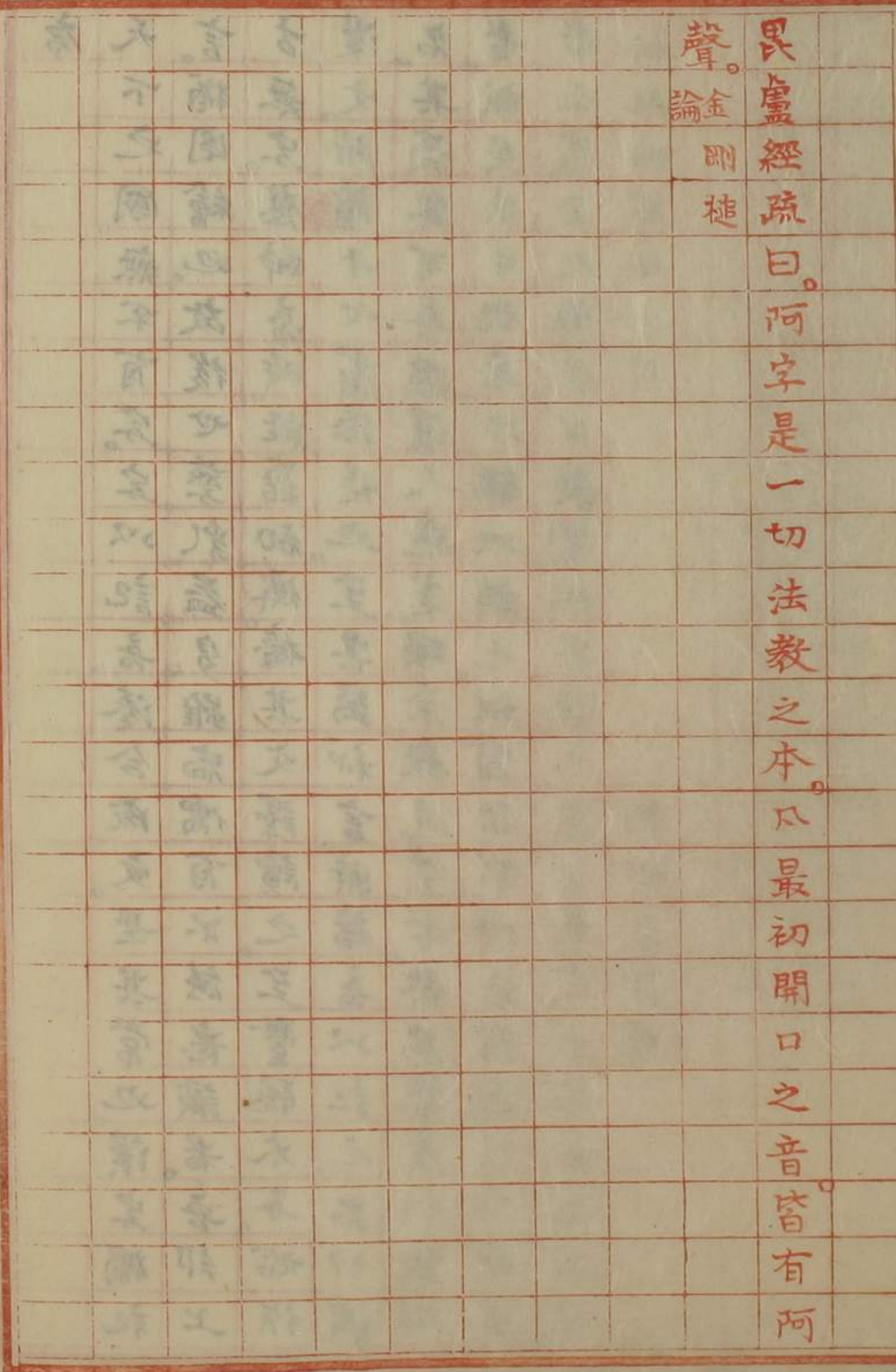
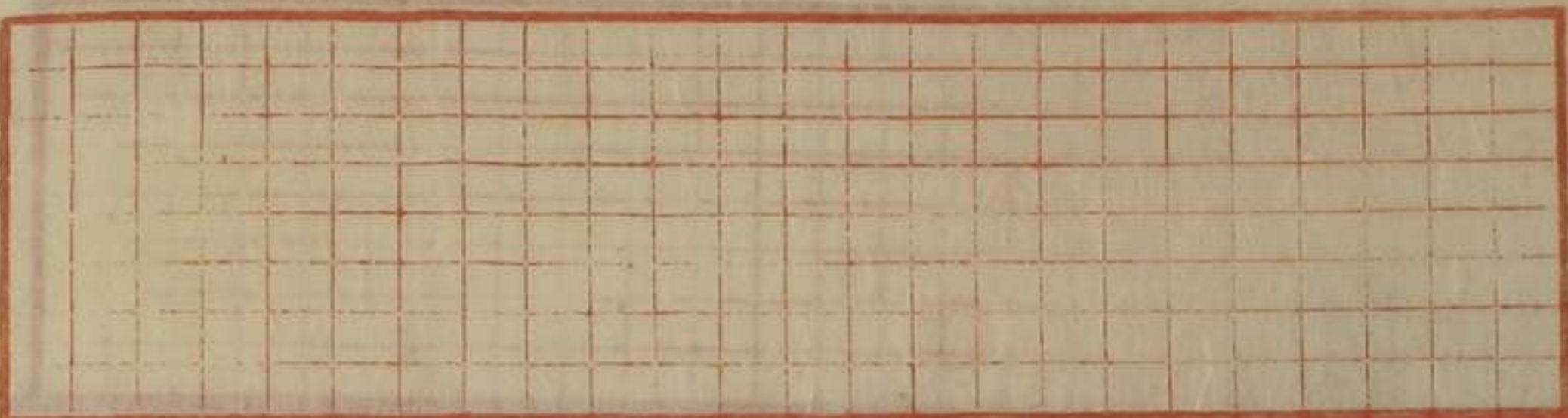
活	入	源	江	利	子	波	心	石	不	心	假
文	八	月	名	訓	水	靈	心	石	儼	心	名
道	反	八	仁	二	波	子	之	之	誤	之	字
有	乃	保	二	と	乃	錯	不	上	上	不	原
こ	末	乃	元	と	草	用	以	以	以	以	
れ	筆	次	二	り	前	ひ	乃	乃	乃	草	
古	新	本	耳	八	八	乃	省	乃	一	書	
新	井	古	耳	八	八	乃	乃	乃	一	加	
向	井	古	耳	八	八	乃	乃	乃	一	乃	
機	向	本	耳	八	八	乃	乃	乃	一	乃	
の	機	本	耳	八	八	乃	乃	乃	一	乃	
況	分	本	耳	八	八	乃	乃	乃	一	乃	
な	注	本	耳	八	八	乃	乃	乃	一	乃	
り	二	本	耳	八	八	乃	乃	乃	一	乃	
四	反	寶	之	破	走	乃	乃	乃	一	乃	
乃	切	之		破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
学	之			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
分	反			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
出	乃			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
と	前			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
	さ			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
	て			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
	入			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	
	こ			破	乃	乃	乃	乃	一	乃	

第

序
天下之國無不有字。字以記音。湊合成文。是其常也。漢字獨記
言。猶圖繪也。故後世摹乳益多。雖扁儒有不能悉識者。吾邦上
古無字。應神帝時。經籍初傳。據其文譯讀之。至豐聰太子始作
漢文。所謂十七憲法是也。至其為和言。特藉音以記之。名曰假
名。其簡要可喜。過漢人遠矣。獨奈軟近學者。務為擊空。以誑昧
者。祇足先生。因著此編。以糾之。此羅扶別。略無餘蘊。足以發學
者之蒙。余久辱先生教督。洞其說已熟。及書成。叙其意。實簡首。
弘化四年冬十月

岡松辰謹撰

聲論 剛捷
 畏盧經疏曰。阿字是一切法教之本。凡最初開口之音。皆有阿



假名考

齋部廣成り古語拾遺の篇に吾邦いふしへを文字といふ
 といふとの出来より學ひれ道にのち片假名平假名と
 といふとの出来より學ひれ道にのち片假名平假名と
 といふとの出来より學ひれ道にのち片假名平假名と

石文 小樽港内手宮埠頭數百尺、西懸崖、上百尺河
 邊に存り石ヲ鑿キテ存見之所リ初メ海軍中將榎本武
 揚河拓大書記及山内堤雲等此地當リ石鑿石劔雷等
 及ニ陶器古羈鞣ヲ去申ニ擲リ得タリテ今カ、明治十一年來
 觀ニ因テ又此刻文ヲ見ル、當リテ東京大學ニ送ル其明
 年香港太守也、熟土伊來遊、時ニ當リテ風雨、剝蝕ス

とりて
 の名市
 種は假
 呂の文
 と呂子
 ふ磨の

假名考
 漢字の
 音を
 表す
 こと
 也

し	名	字	作	文	年	之	い	主	齋	假
そ	名	子	お	字	假	假	ふ	の	部	名
り	為	て	し	也	名	吾	ま	ふ	廣	考
て	人	く	し	片	ハ	邦	の	し	成	
漢	と	そ	い	假	草	の	出	と	り	
字	い	あ	は	名	書	文	来	つ	古	
と	ふ	れ	は	ハ	れ	字	と	り	語	
り	そ	此	れ	カ	い	と	お	り	拾	
て	そ	を	し	不	く	お	ま	ひ	遺	
用	と	し	ま	子	筆	へ	り	れ	の	
お	り	假	書	書	と	り	片	道	子	
と	て	名	子	ハ	も	假	名	の	吾	
り	川	名	多	イ	ハ	名	ハ	の	邦	
也	の	多	イ	と	ハ	ハ	漢	の	い	
漢	比	ハ	多	伊	の	漢	字	入	し	
字	ハ	佛	む	り	の	字	多	ハ	ハ	
の	僧	經	ハ	作	子	の	ハ	假	文	
音	徒	ハ	以	り	マ	偏	年	名	字	
と	の	種	呂	口	カ	旁	假	と	と	
り	名	ハ	の	と	ハ	と	名	と	つ	
て	多	假	文	子	の	り	と	と	ふ	

第

聲。 毘盧經疏曰。阿字是一切法教之本。凡最初開口之音。皆有阿。

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

て四声とハふきりすらくと承らう子ひりみふたや平
といひまけしくあられと上声といふ尻ろくで消へ
行さゆし多歌と去声といひこ、まて尻ふくのまくと
当ハ常られぬと入声といふ今より千年あまやまの
沈初始て四声の名と立、千古未茶の秘と得よりや不
り多れと清歌といふ古に唐うとまや句のおり子親と
いふまのとお知ぬる代句何まと重れハ重うて引くぬ
る子四声此ろちかとも子引うて飛ハ川島とつさまで
用ゆる王ろしさを平上去入の名らそふれ其のハと
免ハむろしよりあうし之吾邦此殆此る人ハハハハハ
得ふらさろし日己いし日か、甲し時肥故高本行しと
いつ歌博士をこえて心川たて人まで散りし代少侍しと

れハ唐歌よりなりしさゆ子守ありしうし心と因て古
ぬことと清傳し子清騷賦文あといつ歌さまの陽子親ふ
免るハ皆同じさゆ人し備茶の登と廣とらふいし人の長
海日て唐人子あひて其王さして文よと書あらま也しハ
二十算とのち此を如さて清ハ第二句の終子親といふり
のとおく第四句めまふあうるまかふるま一何まきみ
日おくと地和蘭の角しふと、いハるらとと同一王空の
傷ハ此とをかそりて第一句のえしを子親此字とわく第
三句のえしをまそわくのちハ一句をさみ子此例也さ
て其韻ハ詞葉此志り子あ心らへとれ此五音のあ歌文字不
り大和言葉まていつまをし免此韻かともとと文字あてと
し免多歌言葉あ色ハ第四句をそと免此韻かともとと文字あてと

第

日しと唐より六朝といふ朝鮮より尚書とい言ハ
れ是朝鮮の西より見へ侍ら川のより漢書と不
このまよの唐書より多うひと歌と格うて再其の邦も書い
ぬると唐書より一かへるふ歌をしのり日習ひ治しこの文
ハ唐書より一かへるふ歌をしのり日習ひ治しこの文
あり朝鮮ハ此書より久しく固いて今より二百四五十年た
かりと茶々と申叔舟といつれ人海東諸國にといふ西
こ作更し子吾邦の言葉といれ唐書より寫し多うされと
いと近々ところ山田何うしといつる朝鮮人のあひて大
學より其中て多うて假名をてりといつる朝鮮人のあひて大
ととるつと近々ところ山田何うしといつる朝鮮人のあひて大
といつと近々ところ山田何うしといつる朝鮮人のあひて大

て、漢の唐書より六朝といふ朝鮮より尚書とい言ハ
馬の漢書より六朝といふ朝鮮より尚書とい言ハ
顔の直譯漢書より六朝といふ朝鮮より尚書とい言ハ
とみん佛經に傳りしものや有々人中ら朝廷を儒を
ハ漢書より六朝といふ朝鮮より尚書とい言ハ
こまむありしとおきて何うしより今も其つと跡をり漢書
吳書より六朝といふ朝鮮より尚書とい言ハ
このありされとと吾邦此人物のふさまの唐人とちうひ
しより起ておの川とつて行し物な切といふこの
と大よふりあるは皆一種此洞とハあるり中世遺唐此使
志者くありしは此邦の人を漢の唐書習ひしりや何れ
博士此唐書より六朝といふ朝鮮より尚書とい言ハ

第

第一の教りして孔子此教とまつ為とくそ宗といし川水
されと是のこめてハ常此まし色立らるていつとふく何
と主人川れまて初ぬれハ孔子の教ハ次子書の教あり書
のおしハ先君臣五倫の道代止し天文地理治國平天下
此理と明ら色何もますし立て崩さぬやめと宗とし多る
この也上世の教ハ左の物ハた子おた古の物ハ古と云
まくまう子いつ川也く過と存分多危身とまやう子
まると初るしりあしぬ流子上まあまきまき敬へりて君
と人まこ、ろとあ也て不軍何まうと平らりく流りり
うしされと文字といふこのるく細らふ教ゆしくハ行
とらハぬまも多うし子末のせりるうてひと心も戒
よく成多れハ道神仁徳の二帝をし免て唐書ひとおこし

給ひ寧樂のころなるてハ流書のおしハよくとく此
て王室まよく尊とりりし今北京子ら川ら也路ひしこ
ろより魯まひ日く衰ハ書此教人川まゆりて噴湯茶の
みえ新れハ新源路の上りしてま相虚職月夜玉曼あとい
へる巻と子ハ常れハいつとまらぬまじりて人の何るま
しりま也あれとし毛源氏のまら川く常ぬれハ式部
の器子まあ、以當時此人り、孔穢くハし行と何れま
しれまも思ハさりしゆハ朝廷のあ、ハしか、甲し
ハハ名倫れおしハ盡くこされて自ら保元の乱ま出来
て王室ま川ま失ひ路ひし也されと大和教の教ハ尚
強り下成ぬくみいつとりりてりも何るまハ和教ハ尚
ハす大書目の尊れ君師の任とり多路ひ人の道とまあり

第

日ひの業とをかしへ紹ひし大徳世に多しとて天
津日嗣ふくく徳へまして人皆これ神の依りて神
のまをとい大和歌のまを失ひ多しぬある唐ハ古
へ言さく唐人とていひて學ひれ道盛るれハ世に
此邦にありまの、み也唯源治の国同と記せし芭蕉翁
連歌ハ連歌子本川記て兼て韓孟聯句此類とて其影寫
吾邦ハ文字ハふり
水と上世の風いとみむる元音眼此三篇此本邦の
古の得ハ吹書經子のやし先音眼此三篇此本邦の
古しハ周知らるあれ二神早此の神武帝

東征のとれ常子和歌やちてほららさしとのへ
其王ハおしし申すくよりみして帝のりたしく
ら子おのやしと思ひあらる也物ことまていひ
子交あれハ其才此もく水多る也才のまらるハ其
蘇ハいつそり多くて滅のころり藩さ行くものあ
のおしハ衰靡れ道あれと其才と子すす水終ひぬハ
周の弊ハ外と飾りて滅れ心薄くありぬるハ子
くそと捨結ひてすくよりまをぬる宗とハるし終ひ
ぬ清の教を殊り重んじし本邦の人ハ才と子すす水終ひ
ハぬみてはあまぬ魚しぬぬ水と清あし多つて作や終
人日と遠く立ちまらる外の人ハ才と子すす水終ひ
遠征の國に立ちまらる外の人ハ才と子すす水終ひ

第

そ次とつりさハあれと吾邦ハ東海北をてり有りて
りこよりし國由ハ人の言葉ハあり何れも唐天竺の
正しきハ及そ次音韻ハ學び子聽隙とつて有りて
れハ言葉の續々様を忘りて唱聲を声れり或れとい
ふ事トハハさけ茶とつふ處と下ノ菜子引直てさか
葉といひるましといふつた上ノ石子引れり石むし
といふ多けりふたと云つた上下子引れて有りてふ
れといふらと等ハ唐天竺ハふたと也片田舎子あま
くあれハ音韻ハ學び正法也おのれ和葉の文をむ
マ穀隔物と多し此其邦西ノ海子のそみりてし何
れ由つ也吾邦の人ハ才ヲ殊々嗜む暇を多れと學びの通
れて是らぬとの也物のうと畫くとも唐より傳へし也

唐人のうけ彩畫ハ筆の清くて墨色のおう彩りしれ遠く
吾邦ハ畫工ハ及そ次されと唐人の如きハ亦見と
れとところ心ゆりくありれさ立勝りたるハ唐の画工ハ
皆胸とみめてかくりけハ海山のう彩りし花鳥の色
音とあら目彩りといふとよと名ある由ハ也
いさ里まといつてれ邦人の他りし袂時計といふもの
其外の器とハ所蘭人のまて來ぬハ刀ハ用ひ様とい
拙してありみていさ、手筒あり人の矢まうてふ器と
て聲多て音彩りさし多すへて唐人まて和蘭の匠長
海子清り素々舟航子吾邦の一日りあまわさハ三四
日とるしも川るとりへりれ西のりとあて心ざり
す人と巧ありくありといへと吾邦人ハ及そ次と和

第

蕪人ハ言よし也天文の略は漢し子いそりて人の言
 教をハ漢り多く算術杯ハ殊より人なり理り子あり
 そのくるうされと天文の道も器化るをその精しく
 て行はる心多し吾邦子多かりぬるハ其まじ此事ハ心
 七入をて學心明れゆつて吾邦人をして力成入て學心
 るハ魚くを器化るを二國此人ハまおるま
 りぬるし夢心の道ハ人の殊に勉むる事なりし

第

か	茲	の	ハ	オ	ヨ	ツ	然	學	呂	東	
フ	と	二	ハ	皮	リ	の	る	に	波	京	
ヘ	舌	音	ハ	ハ	發	四	に	至	五	師	五十
シ	より	は	ハ	ガ	ス	音	五	リ	十	範	音
此	發	何	ハ	ガ	ル	是	十	テ	音	學	の
半	す	行	ハ	イ	音	れ	音	ハ	清	校	錯
濁	る	に	ハ	ガ	ハ	な	中	正	音	附	乱
音	音	屬	ハ	リ	シ	り	濁	し	濁	屬	節
節	に	是	ハ	ガ	テ	此	濁	さ	音	教	前
從	し	る	ハ	エ	タ	四	共	が	々	則	後
前	て	や	ハ	ガ	行	音	=	上	教	以	
呼	清	是	ハ	オ	ハ	は	錯	に	授	下	
音	音	れ	ハ	ハ	清	濁	乱	と	生	等	
ハ	半	廿	ハ	リ	濁	共	の	正	是	小	
ア	濁	行	ハ	決	音	々	音	し	れ	學	
ハ	音	ノ	ハ	し	は	行	ハ	々	初	八	市
イ	濁	半	ハ	テ	タ	行	ハ	々	學	級	川
ハ	音	濁	ハ	從	タ	ハ	ハ	々	の	ノ	兼
ハ	音	音	ハ	前	イ	ハ	ハ	々	入	ト	恭
ハ	音	な	ハ	呼	タ	ハ	ハ	々	門	讀	
ハ	音	り	ハ	歟	ハ	ハ	ハ	々	以	書	述
ハ	音	三	ハ	如	タ	ハ	ハ	々	し	讀	
ハ	音	行	ハ	く	エ	ハ	ハ	々	て	法	
ハ	音	は	ハ	ハ	タ	ハ	ハ	々	音	伊	

第

前
後

市川
兼恭

述

なり譬へば土と従前の如く「子と教へむしてタタタ
 と教へ町松を「マ」チ「マ」ツと教へむしてマタイマタリと教
 ふるを要するが如し但し本員ハ和語に熟セむ古例確
 証ありて土町松は従前の如く「マ」チ「マ」チ「マ」チ「マ」チ
 和語の清音とするの説あるやと知らず併し假令此の如
 き證あるもセよタ行の「マ」ツや書して従前の「マ」チ「マ」チ
 マ「ツ」と唱へしむるは決して適當の音に非む故に従前唱
 へ來れる和語を其儘に置く時は止むと得ず五十音中別
 に「マ」行の半濁音「カ」シ「ソ」セ「リ」を増加し其第二第三の「シ」
 を以て従前の「カ」シ「ソ」セ「リ」を增加し其第二第三の「シ」
 を「ソ」に換へ土「マ」は「ソ」に換へ「マ」は「ソ」に換へ
 マ「ソ」と書せしめタ行の第二第三の「マ」は「ソ」に換へ
 するも穩當とすべし此他尚改正の種々の良法あるべ

しと雖之を改正せんとする時は決して速に議定するや
 期せず數十會を重ねて此一事のミを議するに至ると雖
 終り其改正を遂くる時は學士院と無益の場といふべか
 らず

東京學士會院雜誌第四編
 明治十六年三月刊行

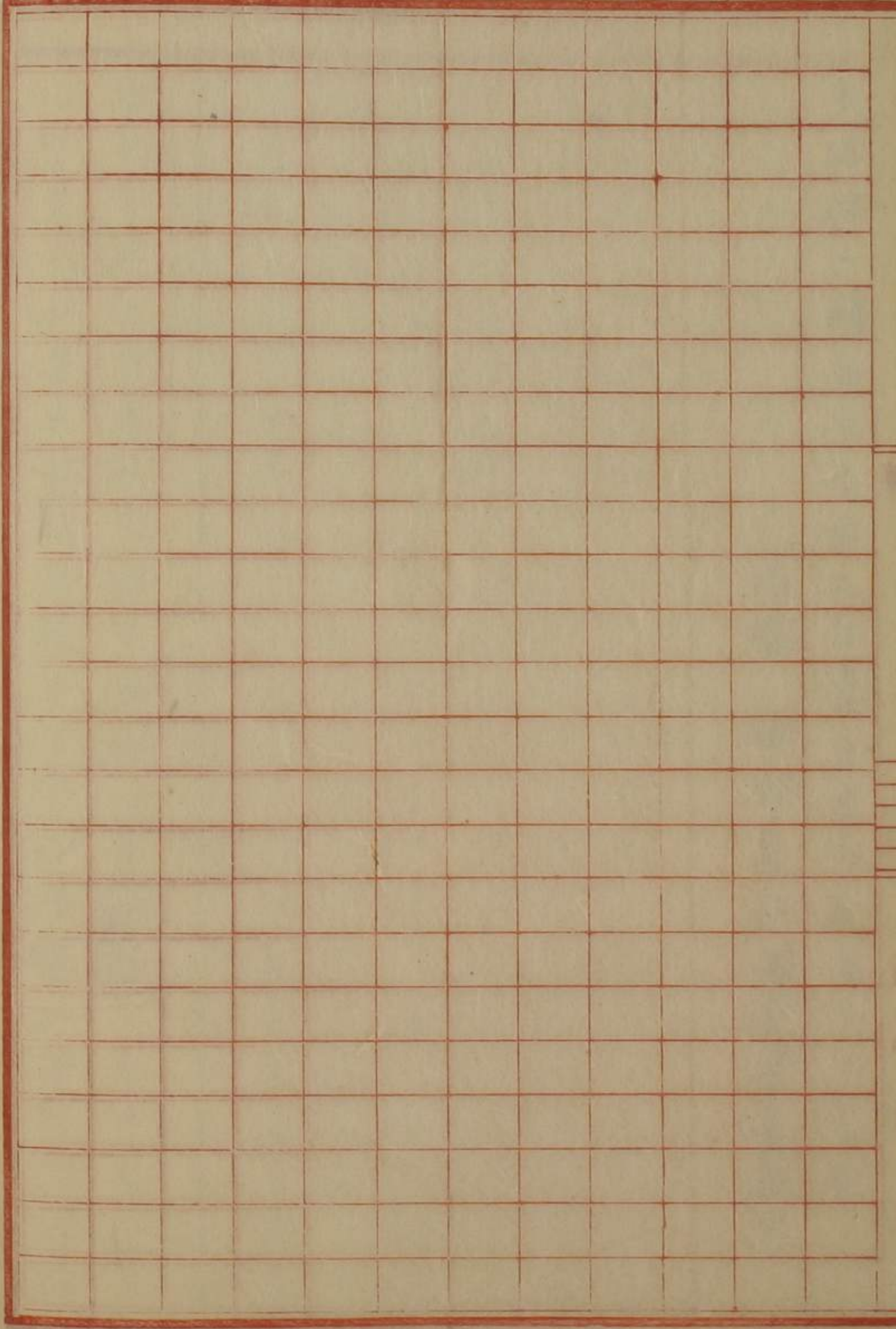
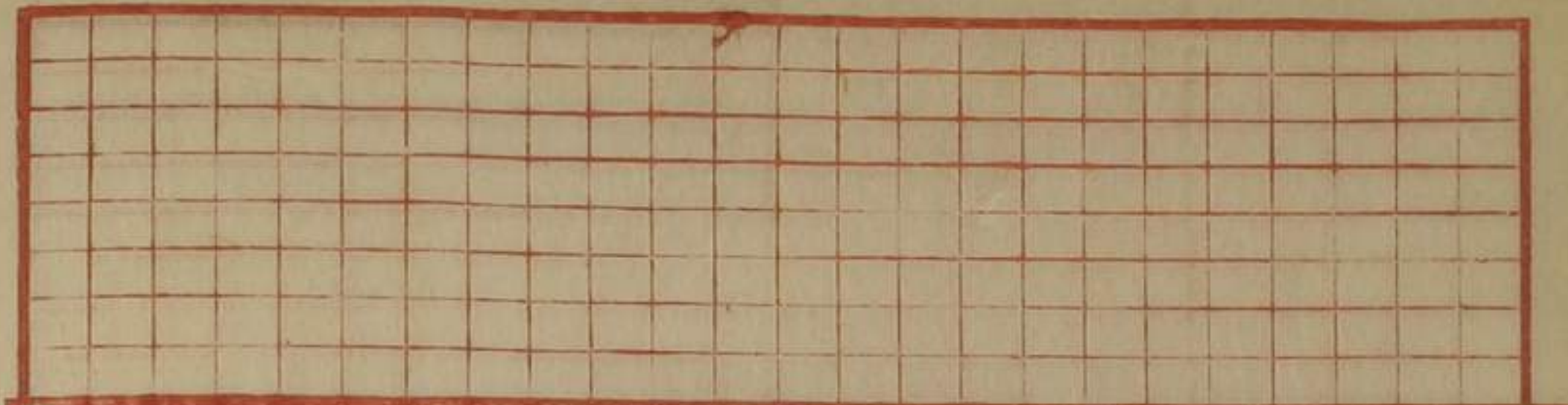
第

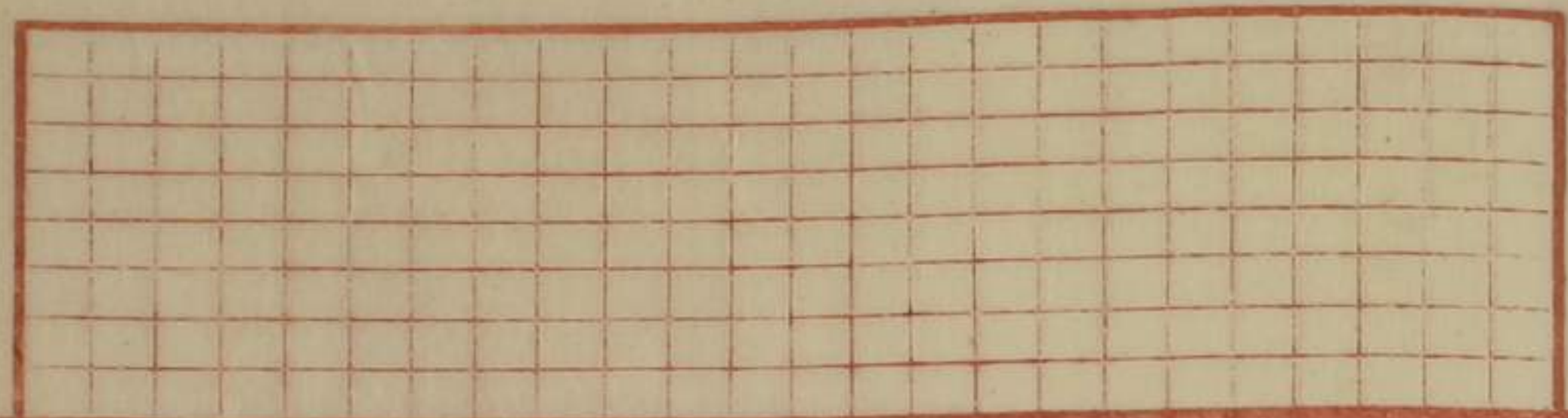
て	市	字	あ	通	と	境	終	和	あ	國	日
制	五	唇	と	お	云	部	と	字	あ	字	本
化	十	し	つ	の	云	連	と	そ	神	い	母
し	餘	て	つ	字	云	石	製	こ	代	ろ	字
ゆ	川	る	も	是	云	横	す	わ	の	は	兼
ふ	乃	る	と	な	云	お	る	く	ま	此	神
在	な	る	又	な	云	以	る	と	し	濫	佛
子	の	る	漢	と	云	會	一	制	漸	觴	儒
つ	れ	る	字	云	云	し	茶	し	く	と	
ろ	は	る	上	又	云	て	之	ゆ	以	探	
は	百	る	下	又	云	和	子	ふ	以	る	
色	日	る	右	又	云	字	教	と	以	抑	
し	の	る	右	又	云	此	字	い	ら	音	
九	あ	る	と	又	云	書	と	ひ	ら		
部	ゆ	れ	考	又	云	一	い	ひ	れ	知	
ハ	い	し	界	又	云	部	ひ	又	ぬ	澄	
一	と	と	し	又	云	四	又	聖	無	字	
宗	れ	れ	ゆ	又	云	十	天	德	仁	と	
源	る	る	ふ	又	云	卷	武	皇	天	用	
の	ひ	つ	夫	又	云	と	帝	太	皇	ひ	
神	神	て	神	又	云	撰	此	子	此	あ	
道	勅	て	代	又	云	り	国	吾	此	へ	
と	と	て	の	又	云	や	と	國	此	し	
	奉	て	文	又	云	東	字	と	此		
		て		又	云			字	此		

第

Blank grid area on the right page.

	ら	の	子	の	以	才	子	尸	止	ア	片
	同	本	于	延	延	同	〇	藤	醫		假
	紀	本	成	久	上	伊	江	堂	畧		字
	本	木	蓮	漢	〇	家	家	本	折		源
	正	木	寺	書	上	の	次	論	〇		并
	矩	木	本		上	省	第	語	安		別
	藏	藏	類		同	本	本	訓	の		體
第	假	假	名		い	傍	訓	力	省		
	字	字	義		延			木	有		
	日	日	折		喜	尹	木	木	延		袖
	山	山	真		天	同	正	延	喜		原
	同	同	福		京	上	矩	式	式		芳
	藏	藏	寺		極	〇	藏	古	古		野
	延	延	本		本	上	延	本	傍		編
	久	久	將		訓	子	久	本	訓		
	本	本	門		泉	同	本	漢	〇		
	漢	漢	記			し	漢	書	草		
	書	書	〇						原		
			字						の		
			の						意		
			省						の		
			有						意		





ハ	フ	九	分	今	久	才	ハ
大	僧	見	天	延	筆	横	并
江	親	在	量	喜	譜	川	道
孝	鸞	書	森	夫	古	松	風
言	書	目	経	古	本	禪	書
本	化	人	訓	本		泥	書
万	長	菅	將	訓		本	佛
葉	兼	谷	門	口		天	経
集	本	貞	記	應		曼	訓
微	蒙	因	延	名		経	長
字	求	々	久	義		訓	き
己	目	最	漢	折		支	延
漢	録	勝	書	折		仁	喜
書	假	経	今	〇		古	夫
本	字	聊	新	口		交	本
己	他	篇	録	の		頃	同
同	類	書	集	全		の	上
	類	集	河	九		書	寸
	名	假	字	本		眞	同
	義	字	日	延		言	上
		本	本	喜		書	河
		紀	紀	夫		訓	長
				古		長	

第



ハ	キ	カ	才	工
後	後	延	作	文
撰	撰	喜	り	又
集	集	式	若	延
最	古	傍	子	慶
勝	本	訓	扱	本
門	本	〇	二	朗
記	饅	草	撰	詠
芳	頭	の	集	要
野	度	橋	片	抄
所	本	籠	假	上
藏	富	全	字	假
古	用	殿	中	字
本	集	力	上	日
今	七	藤	延	本
集	延	堂	久	紀
解	久	本	本	〇
訓	本	論	漢	凡
文	漢	語	書	の
治	書	傍	セ	草
本		點	好	本
志			り	紀
持			同	
牌			才	
			橋	
			寄	
			神	
			代	
			叙	
			抄	
			又	
			才	
			〇	
			船	

七 二 一 夕 子 心

七	通	風	貞	佛	經	將	門	記	延	心	方	○	芳	野	案	子	世	の	假	字	ハ	左
八	方	筆	ノ	筆	下	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
九	藤	堂	本	論	語	假	客	日	本	紀	書	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
十	菅	家	點	中	家	本	尚	書	貞	延	久	本	漢	書								
十一	古	本	古	古	拾	遺	訓	貞	○	何	の	省	ふ	る	ノ	知	る	ハ	ら	ハ	蓋	
十二	世	の	草	古	の	不	不	ハ	し	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
十三	將	門	記																			
十四	太																					
十五	類	類	名	義	菅	家	貞	因	大	長	善	本	夢	沐	目	録						

第

七 二 一 夕 子 心

七	菅	家	貞	因	大	長	善	本	夢	沐	目	録										
八	方	筆	ノ	筆	下	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
九	藤	堂	本	論	語	假	客	日	本	紀	書	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
十	菅	家	點	中	家	本	尚	書	貞	延	久	本	漢	書								
十一	古	本	古	古	拾	遺	訓	貞	○	何	の	省	ふ	る	ノ	知	る	ハ	ら	ハ	蓋	
十二	世	の	草	古	の	不	不	ハ	し	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
十三	將	門	記																			
十四	太																					
十五	類	類	名	義	菅	家	貞	因	大	長	善	本	夢	沐	目	録						

第

色葉歌作者考

黑川直賴

述

東京學士會院雜誌
第六編之一
抄

色葉歌作者考
十六年九月十五日
演說
係

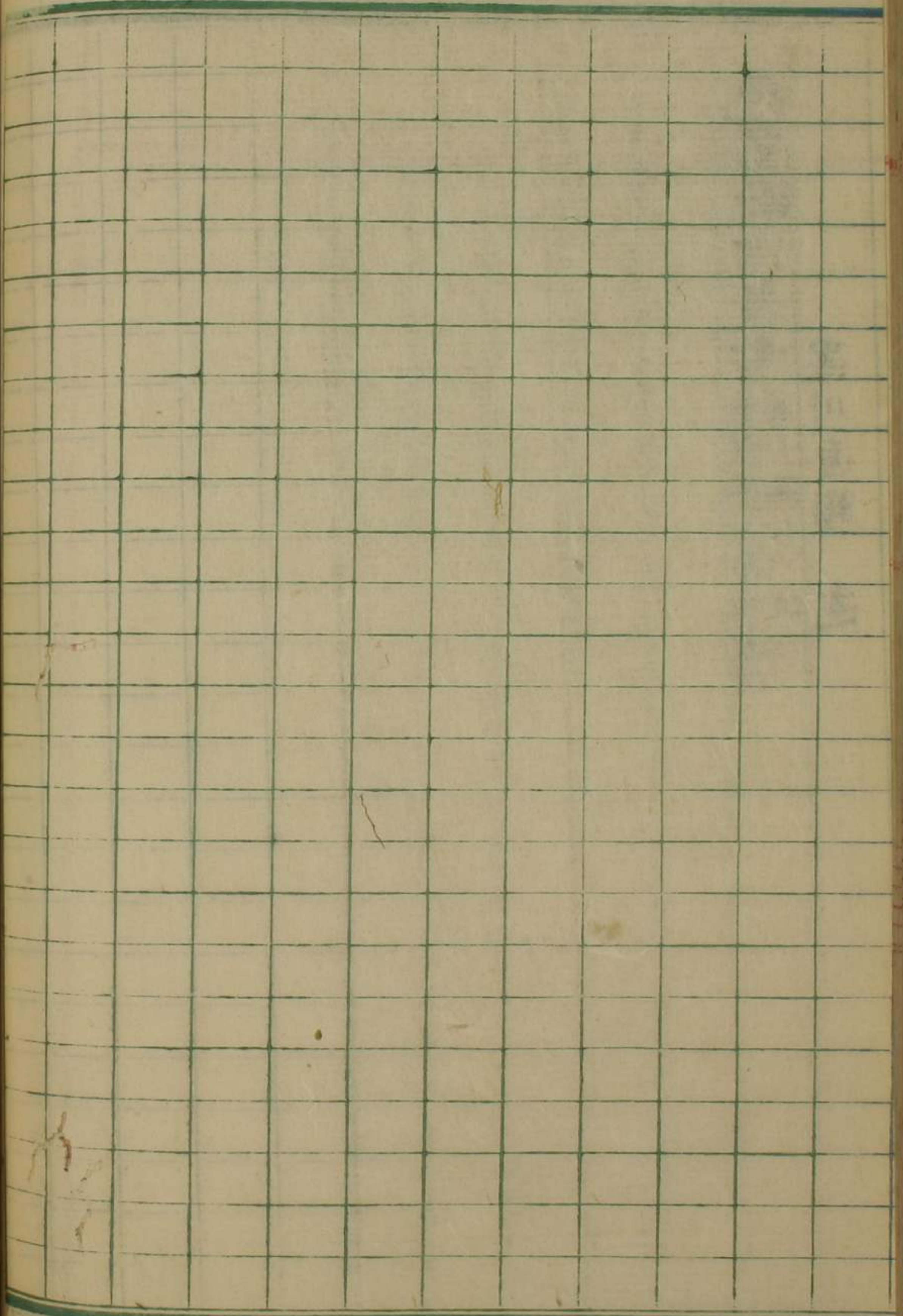
黒川直頼
述

四十七字歌、世傳初造弘法大師、亦奇作也、然以其語
已不祥、辭亦不雅馴、近來有改作之者、余所聞見
僅七八篇、前年神文徽作二篇、余亦倣之、余固拙矣、
唯本居翁與文徽於前人有光、但以其字不復、數有
限、富於前、貧於後、解於右、寔於左、難於流暢、

秦島千字文約說

作ナルコト疑ヒナシト決シテ云ヘリ平澤元愷安藤為章弘法
師ノ抄ノ云云大師ノ

高月氏



色葉歌作者考十六年九月十五日 黒川直頼述

伊呂波歌ハ弘法大師ノ作ナリト云フコト由来已ニ久シ故ニ近

世ノ博識名匠モ多クハ弘法大師ノ作ナリト云ヘリ契沖阿闍梨

カ知字正濫鈔ノ序ニ暨于我野山準竺墳字母有四十七言裁以呂

波歌世人傳學至今則以有限字述無窮心可謂千古絶妙百世依

憑實我國字母也云々ト見エ又本居宣長ハ花鳥餘情ニ弘法大師

これを作るとあり世ニもしろ云つたへたりさもゆゑへし云云

ト古事記傳卷一ニ云ヘリ山崎美成釋了阿伴信友等ハ簾中抄ノ

假字ノ起リノ條又凌雲集密嚴諸秘釋等ノ書ニ據テ弘法大師ノ

作ナルコト疑ヒナシト決シテ云ヘリ平澤元愷安藤為章ハ弘法

高月氏

色葉歌作者考
黒川直頼
述

大師ノ作ニ非ラス。後人ノ作ナルヲ。名ヲ大師ニ借レルヲ一ニ

簾中抄曰以呂波四十七字本秋詞也自以迄遠十三字一説ヲ出サレ

護家僧止作之自和迄末三十五字弘法大師作之

本林以字十二麻多三十五體文而統四十七字其讀

也如款之矣云云。問曰假字手本假

ひくや云云。何人所作哉答曰

弘法大師御作云云。見弘法大師ノ作云ナ

リナ但大女御御自筆假字法華經供養之時被行御八講講師南北

英才相遞為導師高名清範慶祚等之輩各振富樓那之辯才也後源

信僧都又勤此事説曰日本國考誠雖為如來之金言唯以假字可奉

書也弘法大師傳習諸直言梵字悉墨等密法之後寄四教法文作イ

口ハニホ一トノ讀給以來一切法文聖經史書經典不離此讚文字

イ口ハニホ一トノ字ハ色ハ句一ト云ク心也不說他事只以此

一事令講而人々皆驚耳目之由所傳聞也古人日記中在此事云々

又問云然者件弘法大師時以往無假字歟日本紀有之由慮外令見

答云此事尤不審也雖然只付倭言合之書也イ口ハニ於テハ尚彼

時始ニ歟先哲可尋云々簾中抄卷四假字起ノ條天仁三年八月日

向小一條亭言談之次問曰假名手本何時始起哉又何人所作哉答

曰弘法大師御作云々大○簾中抄故文省江談ト以ノ他釋日本紀日

原稿用紙

大日本學術研究會

弘法大師御作云々
 但大女御御自筆假字法華經
 供養之時被行御八講講師南北
 英才相遞為導師高名清範慶祚等之輩各振富樓那之辯才之後源

英	リ	弘	字	卷	シ	ト	大
才	ノ	法	手	江	所	云	師
相	ナ	大	本	談	詮	一	ノ
遞	但	師	書	云	臆	然	作
為	大	御	タ	天	斷	レ	非
導	女	作	ハ	仁	ニ	ト	ラ
師	御	云	伊	二	出	モ	ス
高	自	云	呂	年	タ	元	後
名	筆	件	波	八	リ	愷	人
清	假	事	歌	月	予	為	ノ
範	字	無	ツ	日	是	章	作
慶	法	所	平	向	ニ	ノ	ナ
祚	華	見	假	小	於	說	ル
等	經	ル	字	一	テ	ハ	シ
之	供	コ	者	條	一	大	名
輩	養	ソ	何	亭	說	師	ヲ
各	之	リ	時	言	シ	ニ	大
振	時	書	始	談	出	非	師
富	被	冊	起	之	ス	ス	ニ
樓	行	ハ	乎	次	一	ト	借
那	御	見	又	問	シ	為	レ
之	八	ル	何	曰	一	ハ	ル
辯	講	所	人所	假	說	キ	ル
才	講	作	作	字	出	證	ル
之	師	哉	答	手	サ	據	ル
後	南	曰	曰	本	レ	ナ	ル
源	北			假			ル

原和月終

大日本學術共研會

信	一	又	答	時	向	曰
僧	事	問	云	始	小	弘
都	令	云	此	ル	一	法
又	講	然	事	欵	條	大
勤	而	者	尤	先	亭	師
此	人	件	不	哲	言	御
事	々	弘	審	可	談	作
說	皆	法	也	尋	之	云
曰	驚	大	雖	云	次	々
日	耳	師	然	々	問	大
本	目	時	只	簾	曰	〇
國	由	以	付	中	假	簾
考	所	往	倭	抄	名	中
誠	傳	無	言	卷	手	抄
雖	聞	假	合	四	本	故
為	也	字	之	假	何	文
如	古	歟	書	字	時	省
來	人	白	也	起	始	江
之	日	本	イ	ノ	哉	談
金	記	紀	口	條	又	ト
言	中	有	ハ	天	何	此
唯	在	以	ニ	仁	人	ノ
以	此	由	於	三	所	他
假	事	慮	テ	年	作	釋
字	云	外	ハ	八	哉	日
可	々	令	尚	月	答	本
奉		見	彼	日		紀
						日

原稿用紙

大日本學術共研會

少	釋	ト	波	レ	ル	子	古	本
シ	ナ	ア	歌	サ	シ	ナ	今	紀
モ	ル	ル	ハ	ル	モ	ラ	集	纂
見	ハ	ハ	弘	ナ	セ	ム	序	疏
ル	シ	伊	法	ラ	ス	ウ	注	花
所	又	呂	大	レ	弘	ノ	等	鳥
ナ	密	波	師	又	法	カ	モ	餘
シ	嚴	歌	ノ	愚	大	ク	弘	情
ト	諸	四	作	父	師	ヤ	法	倭
云	秘	十	ナ	春	ノ	マ	大	假
ハ	釋	七	リ	村	作	ケ	師	字
レ	ノ	字	ヤ	伊	ナ	ケ	反	反
夕	伊	ハ	否	呂	ト	フ	切	切
リ	呂	非	ヤ	波	モ	コ	義	解
因	波	ラ	知	類	云	エ	頰	頰
テ	釋	ス	ラ	說	ハ	テ	阿	阿
先	二	シ	サ	二	リ	ア	法	法
ツ	篇	テ	レ	卷	諸	サ	師	師
右	ハ	テ	ト	著	名	キ	高	高
二	大	恐	モ	シ	近	ユ	野	野
書	師	ラ	凌	テ	ハ	メ	日	日
ヲ	ノ	ク	雲	曰	サ	シ	記	記
掲	作	ハ	集	ハ	ノ	シ	了	了
載	ナル	悉	ノ	疑	ノ	作	譽	譽
示	證	曇	字	ソ	作	ト	上	上
	據	字	母	容	ア	ツ	人	人

シ	道	眺	盛	法	序	門	色	相
テ	眼	瞩	野	頻	次	句	葉	無
ン	動	存	苧	入	大	義	白	常
凌	植	存	磬	一	意	字	散	花
雲	潤	間	鳴	如	次	義	者	則
集	慈	靜	員	法	釋	是	解	表
從	澍	栖	梵	密	名	初	云	一
五	澍	遲	徹	嚴	次	中	有	季
位	字	忘	徹	諸	入	又	二	中
下	母	劇	鐘	秘	文	三	意	葉
行	弘	務	響	釋	解	一	一	則
内	三	實	老	卷	後	就	就	示
勝	乘	幢	僧	八	問	喻	喻	四
正	旨	拂	聚	伊	答	謂	謂	運
仲	言	雲	汎	呂	決	色	色	間
雄	演	日	覽	波	疑	者	者	句
王	四	香	空	釋	乃	花	花	者
謁	句	刹	經	可	至	葉	葉	生
海	石	于	流	有	第	內	內	住
上	泉	烟	觀	事	三	含	含	二
人	浣	霧	釋	因	入	諸	諸	相
道	鉢	瓶	子	假	文	行	行	散
者	童	占	賦	名	中	必	必	者
良	鑪	插	受	釋	可	滅	滅	異
難	炭	時	持	自	有	外	外	滅
報	煎	花	灌	在	二	顯	顯	兩
勝	茶	蕊	頂	先	二	四	四	法
	孺	心	頂	先	二	四	四	法

原稿用紙

大日本學術研究會

駕馬摠一時大才也覽則驚恠送因詩云何乃萬里來可非銜	靈集序和尙昔在唐日作離合詩贈土僧惟上前御史大夫泉州別	一是等ノ書ヲ尙考シニツキテ視スヘキコトアリ遍照發揮性	中抄ノ舊說棄捐スヘカラス又密嚴諸秘釋ノ伊呂波釋モ亦考	ナリ然レトモ其說一定セズ予是ニ於テ愚按ヲ述フヘシ江談簾	云ハルアリ就テ委レクハ本書ニ是等皆先哲ノ據ラレタル所ノ書	々已淺夢不醉寂滅為樂云々ト見エタリ又同書ニ以呂波畧釋ト	常是生滅法四相遷變不住自性名之無常故有為與山今日超生滅	二約法謂色異有四義云々準上喻色 <small>ハニホトキリ</small> 白散 <small>スル</small> 諸行無常 <small>ハコトナシ</small> 我世誰
--------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--

學助玄機土人如子稀其後籍甚滿邦緇素仰止詩賦往來動瀟瀟	遂使絕域寫夏殊方通心詩翰俱美誠興東方君子之風故畏陵子胡	伯崇歌云說四句演毘尼凡聽者盡歸依天假吾師伎術多就中草聖	最狂逸不可得難再見云云トアリ此ノ文ニ據テ孰考スルニ弘法	大師ハ支那ニ在リシ時涅槃經ノ四句ノ文諸行無常是生滅法生	滅々已寂滅為樂ノ義ヲ説キ毗尼ヲ演ベタルヲ知ラレタリ此ノ	四句ヲ伽陀ナリ伽陀ハ即唱ナリナト云フ説モアレト此ノ條ニ	於テハ唯偈ナリ詩ナリトノ見ル可クラス毘尼トハ玄應音	義卷十四ヲ按スルニ毘尼或言鞞泥迦或云毘那耶或云鼻那夜或	云毘奈耶皆由梵音輕重聲之訛轉也此譯云離行行亦道也謂此行
----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------

京橋用紙

大日本學術共研會

ケ	歸	セ	大	化	誠	エ	也	能
レ	朝	リ	師	=	ノ	タ	ト	離
コ	ノ	而	在	歸	詩	レ	見	惡
ト	後	シ	唐	セ	=	ハ	エ	道
疑	本	テ	ノ	シ	作	弘	又	因
無	邦	其	時	ヲ	リ	法	維	以
ク	=	ノ	カ	文	テ	大	摩	名
カ	於	詩	=	=	俗	師	經	焉
モ	テ	ノ	彼	聽	人	ハ	=	或
ハ	モ	意	ノ	者	=	在	毗	譯
ル	俗	專	土	悉	示	唐	尼	云
、	人	ラ	=	歸	シ	ノ	言	滅
ナ	弘	涅	於	依	以	時	善	能
リ	ク	槃	テ	ス	テ	涅	治	滅
而	化	經	釋	ト	衆	槃	衆	惡
レ	セ	ノ	教	ハ	生	經	生	也
ト	シ	四	シ	云	ヲ	ノ	令	或
モ	ル	句	衆	ハ	化	四	棄	云
大	=	ノ	度	ナ	度	句	惡	化
師	示	意	=	リ	シ	ノ	行	度
ノ	ス	=	示	因	タ	文	善	言
行	此	據	ス	テ	レ	ノ	ト	梵
狀	ノ	レ	=	按	ハ	意	モ	經
記	方	リ	詩	ス	衆	毗	見	化
傳	便	然	シ	ル	度	尼	衆	度
記	ア	レ	以	=	其	即	生	衆
記	リ	ハ	テ	ニ	ノ	教	生	生

シ	ル	セ	衆	天	外	漢	即	一	等
初	シ	シ	度	皇	=	學	位	シ	=
二	以	メ	シ	=	措	=	ノ	因	伊
句	テ	レ	歸	至	カ	從	年	テ	呂
護	セ	ト	依	ル	ル	事	ナ	又	波
余	行	シ	セ	ノ	詠	シ	リ	按	歌
僧	ハ	テ	シ	間	歌	詩	爾	ス	ヲ
正	レ	為	メ	ヲ	ノ	ヲ	後	ル	以
三	サ	ニ	如	甚	此	作	嵯	ニ	テ
句	リ	伊	ク	シ	ノ	テ	峨	大	衆
以	ケ	呂	本	ト	如	以	天	師	度
下	ル	波	邦	ス	ク	テ	皇	ノ	ヲ
ハ	ニ	歌	=	大	衰	志	淳	歸	化
空	ヤ	シ	於	師	ハ	言	和	朝	セ
海	ト	作	テ	歸	タ	フ	天	ハ	レ
ト	カ	ル	モ	朝	ル	偶	皇	大	メ
傳	オ	然	亦	シ	ハ	歌	仁	同	タ
ワ	ボ	レ	歌	テ	平	ヲ	明	元	ル
ル	ユ	ト	シ	支	城	以	天	年	コ
モ	ル	モ	以	那	天	テ	皇	=	ト
故	其	當	テ	=	皇	ス	=	係	シ
ア	ノ	時	衆	於	御	レ	テ	レ	載
ル	伊	歌	度	テ	字	ハ	至	ハ	セ
コ	呂	ノ	シ	詩	ヨ	之	テ	平	ス
ト	波	衰	歸	以	リ	シ	世	城	是
ナ	歌	ハ	依	テ	仁	度	間	天	怪
ル		夕			明		皆	皇	

高月氏
日本書紀卷之六十五

ノ	ハ	甚	源	世	=	マ	曉	法	シ
伊	讚	便	信	=	天	ラ	生	又	眞
呂	称	ナ	僧	埋	竺	レ	滅	眞	言
波	セ	ル	都	レ	レ	メ	々	演	四
釋	ラ	モ	カ	テ	ハ	タ	已	四	句
シ	レ	ノ	假	ヤ	大	ル	寂	眞	眞
作	ケ	ニ	字	有	師	ナ	滅	言	ハ
ラ	レ	テ	法	ケ	ノ	ル	為	ハ	即
レ	而	一	華	レ	功	ハ	樂	歌	=
テ	シ	切	經	然	書	サ	ノ	眞	言
ヨ	テ	法	供	レ	授	ケ	四	ハ	即
リ	其	文	養	ト	ノ	タ	句	ノ	歌
其	歌	聖	ノ	モ	人	ラ	ノ	意	=
シ	ノ	經	時	此	モ	レ	意	シ	テ
シ	弘	史	伊	ノ	無	ハ	歌	暹	槃
假	ク	書	呂	歌	ク	ラ	=	終	ノ
字	世	經	波	ハ	リ	ス	作	リ	テ
ノ	=	典	歌	僧	ケ	ノ	リ	テ	諸
手	行	=	ハ	家	レ	然	讚	行	無
本	ハ	モ	弘	=	ハ	ル	セ	無	常
=	レ	離	法	傳	其	シ	シ	是	生
モ	シ	ル	大	へ	伊	シ	メ	早	滅
書	ハ	ハ	師	テ	呂	嵯	テ	ク	
ク	興	カ	ノ	有	波	峨	早		
コ	教	ラ	作	ケ	歌	天	ク		
ト	大	ス	=	レ	ハ	皇			
ト	師	ト	テ	ハ					

京橋用紙

大日本學術共研會

タ	假	ニ	リ	リ	師	改	ト	ヘ
ル	字	此	又	ハ	ノ	メ	甚	レ
ナ	ノ	ノ	凌	先	作	タル	難	按
ル	訓	字	雲	輩	ト	ル	シ	ス
ヘ	點	母	集	ナ	云	コ	故	ル
ク	シ	ハ	ノ	レ	フ	ト	=	=
創	施	假	字	ハ	傳	モ	護	此
意	レ	字	母	大	說	ア	余	ノ
漢	テ	文	弘	師	モ	ル	=	歌
ノ	聲	字	三	モ	ア	ヘ	モ	字
ニ	聞	=	乘	尊	ル	シ	之	母
バ	緣	ア	ト	信	ナ	故	ヲ	ノ
ク	覺	ラ	云	セ	ラ	シ	視	限
ガ	菩	サ	ハ	シ	レ	以	シ	ヲ
訓	薩	レ	コ	人	護	テ	テ	以
點	ノ	ハ	ト	ナ	余	或	ハ	テ
ル	三	不	シ	ル	ハ	護	護	作
コ	乘	都	一	コ	元	余	余	リ
ツ	ノ	合	首	ト	興	ノ	ノ	タ
ク	義	=	ノ	ハ	寺	作	添	レ
ヤ	シ	聞	上	性	ノ	以	刪	ハ
リ	早	ニ	ニ	靈	僧	下	ッ	シ
コ	ク	是	テ	集	=	ハ	得	ヲ
ト	知	ハ	按	=	テ	大	テ	ル
事	ラ	漢	ス	見	大	師	句	コ
ハ	シ	字	ル	エ	ヨ	コ	シ	
弘	メ	=		タ				
法	ノ							
師								
云								
ク								

原和用紙

大日本學術共研會

ナリニケレ	興教大師ハ	根來寺ノ	覺鑊上人ナリ	此ノ歌モ	弘法
大師ノ作ニ	アラタハ	何ソ此ノ	上人ノ取テ	釋スルコト	有ラシヤ
亦以テ一證	トスヘシ				
因ニ云フ	伴信友カ	假字本末	上卷ノ追記ニ	云ハク	かく考記し
托ける後	此ころ	一天保	高野寺の學	靈法師の著	せる弘法大師年
譜を見ら	に或記云	弘仁十年	六月一日	大塔に柱	造初南峯云々
同廿八日	に柱曳塔	上時	大師令授	與大工給	印明畧中其夕方此
眞言令忘	失仍實惠	大工奉問	之處實惠	カナノツキ	ヤウアヤシ
ミ給テ高祖	ノ御前ニ	詣奉問畧	下	また高野	見聞秘録曰弘仁十

己亥六月朔日	大塔に柱造	始南虎峯	同廿八日	曳之於壇上	杣大
工一大法師	二大法師	如跡之役	人等各十六	人也且云	結縁料各
々十六人	授眞言	同夕方此	眞言各忘	失了仍實惠	一大二大共奉
問之所實惠	假名ノツキ	様ソ怪シテ	高祖ノ御前	ニ詣兩明	奉問
云々と引載	せたり二書	とも同時	の事の傳説	なるを後に	聞
傳へたる僧	の二方に書	記せるもの	ありとも	子むかし	乃俗文
ニテ通にか	たうところ	あれと相	かよはしん	大意を推	し考ふ
るにこの時	大師ノ大工	等に印明	また眞言	を授とい	へるハカ
の高野日記	子空海高野	山をさり	ひらきて	堂を建	る時水の道
のたぐみに	いろハの字	を教へたる	由みは	たる時	の事子當り

原稿用紙

大日本學術共研會

大日本書紀卷之六十四 聖德太子本紀 聖德太子御製 聖德太子御製 聖德太子御製

大	歌	=	年	マ	年	に	へ	て
師	シ	テ	六	-	譜	相	ろ	四
ノ	假	記	月	=	=	合	の	加
假	字	シ	=	テ	引	ひ	仲	十
字	=	タ	大	掲	用	て	雄	七
シ	書	ル	塔	載	セ	い	王	伊
用	テ	直	ノ	セ	ル	ろ	ノ	若
井	授	言	心	ル	本	の	詩	波
シ	ケ	=	柱	ヲ	ノ	事	に	と
證	ラ	假	ヲ	見	誤	と	字	切
=	レ	字	建	テ	脱	さ	母	義
ハ	シ	シ	ラ	此	アリ	こ	弘	の
ナ	=	施	ル	ノ	リ	と	三	序
レ	ハ	シ	時	如	ケ	は	乘	長
ト	非	テ	大	キ	ル	た	道	の
モ	ラ	授	工	説	シ	り	言	弘
伊	ス	ケ	=	ハ	能	云	演	仁
呂	然	ラ	授	出	ク	々	四	天
波	レ	レ	ケ	来	モ	ト	句	長
歌	ハ	タ	タ	タ	校	ア	と	中
ノ	此	ル	タ	ナ	正	ル	終	子
證	ノ	=	リ	リ	セ	ハ	へ	造
=	事	テ	シ	弘	カ	弘	ら	其
ハ	ハ	伊	ハ	仁	リ	法	れ	道
シ	弘	呂	梵	十	ケ	大	た	言
ノ	法	波	文		ル	師	る	と
								云

タ	シ	予	近	日	金	剛	峯	寺	大	師	一	生	補	所	秘	録	ヲ	見	シ	=	誤	脱			
ナ	ケ	レ	ハ	其	ノ	事	ノ	能	ク	知	ラ	レ	タ	リ	其	文	ヲ	茲	=	掲	載	ス			
ハ	シ	弘	仁	十	年	六	月	一	日	大	塔	心	柱	造	始	南	虎	峯	云	々	同	廿			
八	日	心	柱	曳	壇	上	時	此	大	工	一	大	法	師	如	此	役	人	等	結	縁	ノ			
料	=	面	々	各	々	十	六	人	授	直	言	梵	文	ニ	シ	ク	レ	師	一	大	二	大	共	=	
給	法	師	同	夕	方	以	直	言	等	各	忘	失	畢	仍	實	惠	=	一	大	二	大	共	=	大	二
奉	問	之	處	カ	ナ	ツ	キ	様	ヲ	ア	ヤ	シ	シ	テ	高	祖	御	前	=	詣	テ	實			
惠	而	明	ヲ	奉	問	云	云	答	高	祖	仰	云	女	=	モ	有	骨	男	=	モ	有	肉			
云	々	實	惠	謹	テ	承	テ	思	惟	之	云	々	ト	ア	ル	ヲ	見	ル	ハ	シ					

吾師と
いつて
平春海
あり

清正弘法大師筆跡云の世に
僧正弘法大師筆跡云の世に
師江の歌のふりて歌の
大ら人の歌のふりて歌の
と師の歌のふりて歌の
い後れせのふりて歌の
今様ありのふりて歌の
細井の横のふりて歌の
集しはのふりて歌の
又世のふりて歌の
のと意のふりて歌の
一のふりて歌の

君臣致

君臣致
臣まらとみならるる
君臣
ねやこいもやい
父不夫婦
江とむれぬ兄弟
あめつちさかゆ
天地業
よをわひり
世説の
ふねの
なは
之

重民曰此歌、旧説に細井廣澤、夢中感得せしより、

四十七字歌

手習のはじめは難波津、淺香山にて、此二首の歌を習ひ
たること、王朝の物語ものに見ゆるが、いつの頃より
か、弘法大師が今般のいろは歌を専ら用ふるに至りけ
む、こは涅槃經中の諸行無常、是生滅法、生滅々已、寂滅
爲樂といふ四句の偈を意譯せるものなるが、此歌の師
者の手になりつるが、快からぬ爲か、徳川氏の世に至
りて、本居翁其他二三の國學者の作れる四十七字歌あり、
されど意味晦澁にして句調はた流暢ならず、

自ら補ひし所ありと云ふ蓋し後來
は歌、浮屠氏の手よりあつて無常を
を忌てかく作りしものふくむり、
詳し之を注釋し、天子の御製
たり、されど辭尚敷いさる所あり

り、次子揚くる鈴の屋大人以下の詠せられし四十七字無同
字の歌こそ、辞は較立ひて大に優たりと覺也。

本居宣長

あめふれば、ぬせき(井堰)をこゆる、みづわけて、や
すくもろひと(諸人)、おりたち(降立)うろし、むらな
へ(群苗)、そのいねよ、まほにさかえぬ、

細井廣澤

きみまくら(君臣)、おやこいもせに、えとむれぬ(兄弟
群れぬ)、ぬほりたうへて(井堀り田植多て)、すろしげ
る、あめつちさかゆ、よをわびそ、ふねのろなは(舟の
艦總)、

鶴峯成申

あぢをつくして(味を盡くして)、わがおやよ、みたま
えさせ(御靈令得)、うめばこそ、ぬなすいはりに(居な
す庵に)、ゆふべぬる、もろびとのむね、ゑらぎけれ
(歡樂きけれ)、

田中道萬呂

すみのえなる(住江なる)、たぬにさをとめ(田井に早乙
女)、わせうろぬ、いねかりてよ、おちほひろへくら(落
穂拾へ見ら)そゆしもむぎまけ、おはふつくれや、

本居宣長

井堰をこゆるみつ水とけて、やすくも

谷川士清

かみ神さふるひのえと日本なりて、お

田中道萬呂

かちほひろへくら兒等そゆ其従しむお

松齋正重

たみぬのくさ蒼生心ぬ稻ゆ齋まけり、

正重

あめつちなせるたみくさ、いねかまけり、をしへそふ
わがおやこえとよほろらも(我親子兄弟丁等も)、うろ
すむれぬて、にぎはひぬ、
以上の五首鶴峯成申のを除くの外、曾田植の事をいひ
て、其意大抵同一轍なるもをかし、最も窮せるは細井
廣澤にて、假名違殊に多し、最も無難なるは、宣長と
道萬呂となり、

松齋正重

寛政年間人

ろゑ飢すむれぬ群居て、よきはひぬ、
清水濱臣云、此四首古学いぢりけて、
さけりかあまふ、くろのころしりかたし、
渡辺重石丸

あめつち 天地よみ 黄泉 ぬまかれ 根分くらぬ位まけし 設けし
ゆ 由 こと 事 たりて 足而うゑと 識モ せぬ 不為 おぼろまは 糺糺
えふへら 可得 経年 むすひの 産靈、いさを 功績 なるそや

あめつち 天地よみ 黄泉 ぬまかれ 根分くらぬ位まけし 設けし
ゆ 由 こと 事 たりて 足而うゑと 識モ せぬ 不為 おぼろまは 糺糺
えふへら 可得 経年 むすひの 産靈、いさを 功績 なるそや

り、次は掲ぐる鈴の屋大人以下の詠せられし四十七字無同
字の歌こそ、辞も較立ひて大に優たりと覺也。

本居宣長

あめ雨ふれは、あせこ井堰をこゆるみつ水とけて、やすくも
ろひと諸人かりたり、えしむらなへ村苗
よさのえぬ、そのいぬよまぬ
谷川士清 跋淡齋伊勢津人著日本
紀通證、和訓栞句玉考等

あめつち天地わさかみ神さふるひのえと日本なりて、あ
やしうれ代を、おほむ大いゆ嘗齋に、うらとまけぬ、これを
たえせぬすゑ、未いよ幾世 尾張名古屋人
本居氏門人著書數部
田中道萬呂
すみのえ 住江ふるたぬ 在田居、みさをとの五日乙女とせ 早苗ら
えぬ、いね 稲かりてよ、おちほ 一穂穂、ひろへとら、兒等そゆ其従し、む

さ夢まけ、あはふ粟生つくれや、

松齋正重

寛政年間人

あめつち天地を成せるたみのくさ蒼生、いね稲ゆ齋まけり、
なしへ教そふ、わか我おやこ親子えと兄弟よほらら、了等も、
ろ急飢すむれぬ群居て、よさ 後あれと假字のたがひとあし、いづれをま
清水濱臣云、此四首、古学ひらけて、
さゆ、とかありふ、人のころしうりかたし。 渡辺 重石丸
あめつち天地よみ黄泉 ねむかれ、根分くらぬ位まけし 設けし
ゆ、由こと事たりて、足而う急と識も、せぬ、不為おぼろまは 糲糊
えふへき、可得経字、むすひの産靈、いさを功績なるそや、

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

明治三十六年萬朝報社より國語の教を募集ヤシ其の一を精選
多々なるものあり 五年七月十五日所載

埼玉縣児玉郡青柳村大字中新里
坂本百次郎

鳥啼 声
こりなくとす、ゆめこまや、みよあけわたる、
東 帆 船 居 居
いんがした、ろらろはらて、ねろろべに、
ほふねわれぬ、もやのろち、

いろは歌

四十八文字を詠み込んだ
昔から著名のもの

「色は白へと散ゆるを、我世誰そ知らむ、有食の奥山今日越えて、浅き見し解ひもせず」
これは有名な弘法大師の御作です。この外にもいろは四十八

文字を巧に詠み込んだ歌があります。今そのうち特に著名なものを二三お知らせしませう。

「雨降れば、雲を越ゆる水わけぬ、井裏り田圃へて、未熟る、天ぬ、世を庇ひそ、舟の船橋」
……武陽書家監修(細井知備の)

「天地分き、神さふる日本成りて、禮代を、大御尊靈、占掛けぬ、これそ絶えせぬ、未熟世」
……谷川土清作

「細山川の、未を見よ、千船群れ居る、驚あり、驚あり、驚あり、何野にし静えぬ、名も傳へん」
……坂本百次郎作

意多迦文 社若

悉曇字記。古來未決ノ疑義二條アリ。一ニ意多迦文。二ニ社若是ナリ。頃日二三子ノ需ニ應シテ。字記ヲ講ス。予ニ此疑義ヲ訂サシマシム。予ヤ學問淺劣。千百年來ノ疑義ヲ解リニ難シト雖モ。今聊梵學ヲ修ム。如何リ之ヲ棄テ顧サレニ忍ヒシヤ。乃チ考證ヲ作ル。左ノ如シ。

字記ニ云。健陀羅國意多迦文獨將ヲ異。先ッ健陀羅ハ國名コシテ。梵名ガドガタ、音譯ナリ。此國ノ事ハ西域記ニ、十五ノオヨリ。健陀羅國東西千餘里。南北八百餘里。東臨信度河。普通本度ノ國。大都會。號希路沙布羅。周四十餘里。下見エテ。其文物ノ盛ナルコトヲ委細ニ記セリ。此信度河ハ。梵名(シド)即チ現今ノ(シド)河コシテ。健陀羅ハ其西ニ位スルコト分明ナリトモ。方今ハ其故址判然ナラス。佛人ハヒガヒヤニサシマレタシ

以上は江戸時代の學者が苦心の結果作つた國音の歌ですが、明治以後に作られたものの中、人に知られてゐるのは次の三首です。

明治三十六年萬朝報社より国々の歌々を募集し其の一を精選し
 多うなるものを、全年七月五日所載

埼玉縣足玉郡青柳村大字中新里
 坂本百次郎

鳥啼 声
 こりなくとす、ゆめこまや、みよあけわたる、
 東 帆がした、ろらろはらて、ねらべに、
 船 居 雨 雨 雨
 ほふぬわれぬ、

いろは歌

四十八文字を詠み込んだ
 昔から著名のもの

「色は白へと散ゆるを、我世誰
 ぞ知らむ、有爲の果山今日越え
 て、浅き見し酔ひもせず」
 これは有名な弘法大師の御作で
 すが、この外にもいろは四十八

文字を巧に詠み込んだ歌があり
 ます。今そのうち特に著名な
 のを二三お知らせしましょう。

「江の江なる田居にさをとめ、早
 稲穂をぬ、種刈りてよ、春風船へ、
 子等其従しも、麥時け粟生れや」
 田中道隆作

「君臣、親王夫婦に、兄弟群れ
 ぬ、井聖り田種へて、未暮る、天
 地榮ゆ、世を待びそ、舟の橋懸」
 法隆寺家康隆作（細井知備の
 ……松蔭正重作

「天地分き、神さふる、日本成り
 て、神代を、大御尊降臨、占掛け
 ぬ、これを解せせぬ、未暮世」
 谷川土清作

「鳥啼く露す、露凝せ、見上明
 け渡る、東しき、空色曇きて、神
 つ途に、帆船群れ居ぬ、露の中」
 坂本百次郎作

「以上は江戸時代の學者が苦心
 の結果作つた國音の歌ですが、
 明治以後に作られたものの中、
 人に知られてゐるのは次の三首
 です」

意多迦文 社若

今泉雄作

悉曇字記。古來未決ノ疑義二條アリ。一ニ意多迦文。二ニ社若是ナリ。頃
 日二三子ノ需ニ應シテ。字記ヲ講ス。予ニ此疑義ヲ訂サシトテ予ヤ
 學問淺劣。千百年來、疑義ヲ解クニ難シト雖モ。今聊梵學ヲ修ム。如何
 ヲ之ヲ棄テ顧サレト忍ヒシヤ。乃チ考證ヲ作ル左ノ如シ。

字記ニ云。健陀羅國意多迦文獨將大異。先ッ健陀羅ハ國名コシテ。梵名
 意多迦文ノ音譯ナリ。此國ノ事ハ西域記ニ、十五ノ才ヨリ。健陀羅國東西
 千餘里。南北八百餘里。東臨信度河。普通本度ノ國。大都城號希路沙布
 羅。周四十餘里ト見エテ。其文物ノ盛ナルコトヲ委細ニ記セリ。此信度河
 ハ梵名信度。即チ現今ノ Sindhu 河コシテ。健陀羅ハ其西ニ位スルコト分
 明ナレトモ。方今ハ其故址判然ナラス。佛人ハヒガヒヤレサシマレタシ

氏。中央亞細亞印度圖志 儒連氏佛譯西域記、附錄、此國ノニ英
人カレニシハム氏ノラダツク記ノ圖ニヨリテ此大都城布路沙布邏
正ル瓜シ子ブマハ今日ノBarotchiナラシト云ハレタリ是西域記ニ記スル場所
トハ方位聊カ相違スレトモ或ハ然ラシ何ニモセヨ玄奘三藏ノ頃ニテ
ハ文華盛ナル印度西北ノ一大國ト見エタリ而テ此喜多迦文ハ其國ニ
行ハレ文字ト知ラレドモ喜多迦ノ語ノ不分明ナルヨリ種々異
説ヲ生シ古來碩學ノ聞エタル安然和上ナドモ其悉曇藏ニ喜字ヲ
喜、誤。迦ヲ加字ノ誤トシテ喜多加文ト點スルニ至ル其牽強ハ論
ヲ俟タスト雖モ人々皆其非ヲ擧ケテ其是ヲ求ルニ苦シメリ近日手
近キ梵書扑筆手鑑江戸沙門省山著寶永六年板自序ニ山陰智廣云健馱羅
國喜多迦文古德以為具云魯喜多加乞又羅此云樹皮彼國以木
ニシテロヒタカハ樹ノ名植物家ハAndrosiaアンデルソニア或ハGardenaガルトニアト呼フモノ
ニシテ現今西藏ニテハ之ヲ削リテ一種ノ符字ヲ書スト云ハル乞又
羅ハ單ニ唱フシハ阿乞又羅利アキヤラト云ヒテ此ハ文字ト翻ヤリ上ノ
魯喜多迦ノ迦字ニ阿點アト加ヘテ阿乞又邏ノ阿字ヲ兼ネ
連合シテ魯喜多迦乞又邏ノ語トナル是レ東寺所傳ノ悉曇
ニ所謂ル他音成自ノ音便ナリ故ニ此語ヲ翻譯スレハ魯喜
多迦文字ノ義ナリ家記カキニハ魯管字ヲ省キシナリ翻替ノ文字
ヲ省畧スルハ支那人ノ常ナシハ怪ムベキト非レハシ而テコノ喜
多迦文字ハ前カキニ云ハレ西藏ノ此樹ニテ書セシ文字ナルト推

知スヘシ。今一二ノ模本ヲ左ニ掲ク。此體ヲ見シハ本邦所傳ノ扑筆ノ文字ハ其體聊カ變化セシ、コレニテ同物ナレトモ知レヨ得ヘシ。故ニ今同字ヲ扑ニテ書シテ之ヲ比較ス。且ツ扑筆ハ今日梵字ヲ書スル刷子ノツト心得レドモ本邦ノ古傳ニハ檜ノ薄板ヲ削リテ書キシモ亦々魯喜多迦樹ヲ削リテ書セシ法、残レリナル可シ。唯古傳ノ此ニ樹皮ト云ハレシハ傳ノ誤ナル可シ。

西藏種子文字

即魯喜多迦字
ト目ス可キモノ

本邦扑筆梵字

社若ノ字ハ梵文ノ牙ナリ。常ニ大般若ノ種子ニ用テ凡文字ヲテ人ノ見馴シモノナレドモ古來種々ノ論アリテ穩カナラス。近來梵音ニ明瞭ナルハ淺草ノ行智師ナドナルカ。是字ニハ困リシト見エ。梵漢對譯字類編ノ凡例ニ寫字ハモトコレ字ノ異體ナリ。凡ツ諸字皆一字一音コレシテ單音無義ナルガ中ニ牙字ニ至テハ其原不字ヨリ出レト雖モ自ら其智ノ義ヲ具有スルヲ以テ隨テ亦別音ニ呼コトアリナド。揣摩摩摩強ノ説ヲ出サレタリ。畢竟此字ノ下體与字ノ不分明ナルヨリ種々ノ附會ヲ生スルモノニテ若シ此字ヲ讀ミ得ハ諸論盡ク消滅スヘシ。牙字ハ智ノ義ナレハ之ヲ譯音ト今傳ルル梵文^{サレテ}ニ^{サレテ}徵スルモノ^ニ合ナルヲ知レヘシ。

然レハ之ヲ普通ノ梵文ニ書スレハ。或ト書スヘキヲ。否ニ作レ故
 ニ。或人ハ五ハ、ニ合、變化ナレト云フ説アリ。然レトモ五ハ舌
 音ハハ齟音ナレ故ニ。之ヲ聯合スルコト。梵語ノ規則ニアルコ
 トナキガ故ニ。此説モ亦牽強ヲ免シス。近日偶西藏語ヲ
 讀ムニ當リ。此字ニ遇テ多年ノ疑團一時ニ氷解ヤリ。西藏
 文ノ此字ハハニ作り。其字ハハニ作レカ故ニ。此ヲニ合シテ其ニ作
 レリ。始メテ我國ニ傳ルニ社若多ハ。西藏文字ノ變セシモノ
 ニシテ。梵字ノ正體ニ非サレヲ知レテ得タリ。

〔如蘭社話卷四〕

國音五十言アルハ。此ハ假字アルモ片假字アルモすべク。①と
 いふの音れよび字有るアルハ。さるに世間アルハ。用ひる
 こと。これさやい。ゆめ。ご。は。や。の。甚。し。き。もの。あり。國學家
 などの説ふ。い。や。む。つ。り。し。り。傳。こ。ぶ。な。い。ふ。の。れ。ど。畢
 竟ニ落着セ。ご。は。説。ふ。し。て。多。く。し。り。ろ。し。假。字。を。む。片。假。字。ハ
 ハ。字。と。や。う。新。井。向。石。ハ。②。③。共。に。梵。書。の。空。點。に。え。る。と。云
 向。石。が。ど。も。さ。ひ。が。の。オ。子。以。て。國。學。が。心。を。し。い。を。し。若。ふ
 る。が。け。ん。の。説。え。よ。何。と。摸。胡。な。ら。う。の。な。り。第。一。今。の。其
 の。字。の。如。く。ん。と。い。ふ。音。者。る。る。な。り。せ。五。十。言。中。に。其。音。者
 づ。と。ま。い。し。し。い。ち。は。假。字。に。も。片。假。字。に。も。其。字。者。つ。と。る。な
 り。これ眼を蓋面を有る。これ今世の人の音が代り

とて訊く来たる在れ古へあしにやいひつる言々今も人と
なりたるなり故に其文もいろは假字の人もにの連書や
みれば假字のジも二の急書やるなり又んも古へのにの言
とつふの讀本をあけむ古へのなみも後記で難波屋にの花
を庵人の志いうにふをいうんぞなはすれどもかゝる言を
いふしを往時はにぶをえ返えはを録るるにを本丹らにの
花を蘭の花けにおしを膏中子にはを丹波せにを錢もく
らにを本蘭あるにを紫菀むるにしを本藥ふ又山城國こ
訓郡をこれも古への言はてなすらび遣り傳さうとる言
口なるこれをもてにの假字の人と轉じ二の言のこに
りたるを徴むべし又古へと今との字口の訊り轉じたる
と世郎花これ古の言はて其字口のなまなくしとふしなり故に
をみたるうしや訓やられくるなり今あはれもなみなめしと
これ一とめとの訊りなり皇國の風古へあはれもなめしと
唱へ申ふもめと寸言を假字にのちあるとあるとふるハ
決してなるとるに辨をばざらとあるなり

記録書

味山色樹ふる山雜談に記録書とて大綱言を大系言中得を
中井應永を志永元和を元未嗟峨を山山礎砌を酒酒や書ふ
どのれを正輝星掛れかゝ假字ハ元末半體の省文ありと
れ益く記録書の藍本やいふべし

佛家栞物書

凡そ寫字の時文字の筆画を省きて筆の勢をこころと
れを佛家名とて栞物書とて見伺に及びしを友みかひへ

ふるる例もや日本紀用明紀と葛城直船女あきほのこ廣子ひろこと何これ
や古記も又さるる始めなるし

人の名も小の字をつくる

皆塘故實に云禁年以て君の法統をなさる者も小の
字をつけぬふや有る小宰相小侍小左兵衛などあられ大
宰相大侍大左兵衛とあらあつてそれ子孫するの少くても
あし小と親やしあふの意なるも又武門もてし本妻服
あてなれふに小の字をつくる者も小次郎などあり
あり新田少左多し高服の一番の子ありと伝・換午後を年
紀二條大宮二度合戦の段に山名小次郎討死の処にこれ
先年和泉國土丸つるまきの城あり討死しあふ之山名古馬頭の子息
後妻の體あり母を妻人の腹に出来あらしむて又討死の後

これに攝して心出し狩子に定め高とくと云
皇國にて先生號の紀原

皇國あり學士儒生を尊崇して先生と稱するも南洲漢人
で其始めなりる本朝儒宗傳曰南洲漢人應神帝之裔也帝
子曰雅淳毛之派皇子之派子子曰佐藝王為南洲祖推古十六
季本朝秀才八人奉敕從隋使裴世清赴隋漢人其一人也高尚
玄理亦杜其中玄理銘明十二年歸漢人之歸又此賦或先歸
歟史不詳之皇極朝天智帝藤原足學周孔道于南洲先生史尊
稱先生不名蓋漢人也先生文而能武著書百篇今亡不傳輝星
按子傳の題號及び文中あり本朝といふ者ありこれに稱
呼の典故を誤るるなりこれに傳宗傳を記されたる頃也

久しに世の後より文化の発展を醸成するに寄与する

乳名に屎乃字を因り

廣東新語曰東莞多以屎為兒女乳名賤之所以貴之男曰屎哥
 女曰屎妹換以吾國の古一亦るかゝりし風俗也其を以て
 人乳貫之の幼名をむるに屎とて呼ぶ

他山之石

抄	後	日	續	柳	娛	訓	尊	周	
文	記	本	續	柳	集	往	卑	周	
文	補	紀	日	菴	竟	来	分	禮	○
德	公	谷	本	隨	日	古	脈	坡	引
實	卿	谷	紀	筆	本	古	圖	東	用
錄	補	響	學	稜	紀	語	尊	坡	書
鐘	任	集	本	稜	竟	拾	圖	志	目
神	三	畧	朝	威	宴	遺	法	林	票
護	三	日	学	道	歌	粹	親	著	例
寺	代	本	原	別	案	本	王	古	
鐘	實	紀	佛	令	國	朝	記	今	
銘	錄	畧	佛	令	史	文	能	著	
扶	元	性	足	六	案	粹	能	聞	
扶	元	性	碑	唐	魏	朝	書	集	
桑	亭	靈	銘	六	魏	朝	事	紀	
畧	秋	集	字	典	志	野	蹟	日	
記	書	後	古	義	記	群	庭	本	
撰	江	續	寫	令	古	載	異	書	
撰	江	日	本	義	事	自	制	紀	
集	談	本	續	解	記	自	庭	分	

ノ	緒	圖	然	榮	土	詠	廿	緣	今
如何	言	譜	草	華	佐	詠	廿	記	昔
論	本	能	瀨	物	日	歌	二	寬	物
ヲ	編	書	武	語	記	大	社	寬	語
セ	專	家	藏	閑	注	概	本	平	園
ス	ラ	傳	瀨	御	右	八	緣	遺	園
帝	浴	說	戸	堂	今	八	管	誠	大
ニ	革	系	明	閑	集	雲	管	大	畧
古今	編	譜	神	白	注	御	家	鏡	桂
ノ	以	徹	社	記	遺	抄	傳	要	林
變	テ	物	額	顯	後	哥	記	政	遺
遷	成	語	裏	顯	拾	歌	家	事	苦
ヲ	ル	解	書	昭	遺	仙	貫	要	抄
畧	故	令	太	記	集	傳	之	略	梅
叙	ニ	集	平	小	隨	作	家	北	梅
ス	其	解	記	右	東	者	集	野	城
ル	書		圖	記	齋	類	清	緣	錄
ニ	格		大	徒	隨	類	案	起	菴
			系	徒	筆	土	抄	柄	

新	高	抄	記	歌	遣	解	新	袋	抄
猿	高	親	井	集	序	中	編	袋	南
樂	僧	親	井	序	簾	中	鎌	草	禪
記	傳	長	蛙	並	簾	外	倉	紙	寺
野	別	記	集	枕	中	經	志	事	鐘
高	親	宣	職	枕	抄	緯	增	古	銘
野	長	宣	職	草	紙	傳	增	事	外
日	別	胤	原	紙	紙	花	鏡	談	外
記	記	記	抄	想	紙	日	鏡	世	記
系	觀	哲	康	想	中	本	假	世	日
其	觀	先	康	中	納	紀	字	世	記
家	古	哲	富	言	言	碩	本	世	式
系	雜	業	記	物	語	碩	木	百	延
圖	帖	談	積	語	台	鼠	反	百	喜
尺	集	諸	積	台	台	漫	倭	鍊	式
素	集	家	集	記	記	筆	反	抄	源
往	古	人	集	明	明	今	字	鑑	氏
來	十	物	仙	明	和	和	反	東	物
昔	種	志	覺	月			切	鑑	語
	猿						義	鎌	

飯	深	皇	代	ノ	然	云ナ	ヲル	理本	書
朝	ク	后	ハ	御	ル	ナシ	為カ	勢邦	法
ノ	臨	ノ	二	字	=	リト	ス如	ノニ	ヲ
後	池	如	王	既	淡	ハ	者ニ	然入	擇
書	ノ	キ	ヲ	=	海		アサ	ラニ	ノ
藝	妙	ハ	尚	書	ノ		ラレ	シヤ	ユ
盛	ソ	最	ヒ	博	朝		スト	ト必	ト
=	好	妙	両	士	以		故モ	ルス	ナ
世	ニ	手	帝	ヲ	来		=未	所其	シ
=	叙	タ	共	置	漢		上タ	=風	キ蓋
行	空	リ	=	カ	文		代筆	テ姿	克シ
ハ	海	降	其	レ	時		ハ法	猶ニ	ハ文
レ	橘	テ	筆	尋	=		曾起	今擬	ス字
シ	逸	弘	意	テ	流		テ道	ノセ	支ア
以	勢	仁	ソ	聖	行		其ヲ	横レ	那レ
来	等	ノ	得	武	レ		書傳	文ト	字ト
筆	入	朝	五	孝	天		法説	ヲ歛	ノ其
道	唐	=	ヒ	謙	武		ヲシ	擬ス	始書
竟	留	至	光	ノ	持		釋テ	摸ル	ノ法
=	学	リ	明	二	統		ヲ家	ス	ヲナ

=	中	文	コ	以	緬	驚	ハ	ス	草
在	古	字	ト	テ	カ	驚	千	レ	ハ
リ	ノ	ヲ	ナ	足	=	反	里	テ	走
テ	作	学	ク	レ	萬	鵲	ノ	克	ル
漸	ナ	ハ	筆	リ	代	ノ	面	タ	カ
ク	リ	ル	法	ト	ノ	勢	目	走	如
言	ト	カ	起	ス	令	ヲ	ナ	ル	シ
事	雖	故	道	ハ	譽	比	リ	者	未
ヲ	モ	ナ	ノ	ケ	ヲ	ノ	凡	ア	タ
志	支	リ	説	ン	致	人	六	ラ	立
ス	那	凡	ヲ	ヤ	ス	厘	文	サ	ツ
コ	字	反	聞	水	著	=	ハ	ル	能
ト	ノ	字	カ	邦	豈	一	體	ナ	ハ
ア	傳	呂	謂	ス	昔	姓	ノ	リ	ス
レ	来	波	草	盖	時	名	ノ	容	坡
ト	ハ	反	反	是	書	跡	ヲ	尺	ク
モ	遠	字	字	レ	法	シ	見	牘	コ
曾	ク	也	及	東	書	遺	ハ	ノ	ト
テ	上	伊	那	論	ス	レ	ス	書	能
其	代	ハ	ノ	ノ	ヲ	テ	輩	疏	ハ

篇	然	ス	一	一	泰	曆	ノ	三
ニ	ノ	ニ	カ	邑	古	天	書	長
於	理	方	ラ	通	ノ	喜	法	ス
テ	鳥	馬	ス	用	世	ノ	延	ル
格	所	ノ	其	今	文	際	曆	ト
段	以	草	如	物	字	浴	大	モ
ナ	所	水	キ	如	ナ	華	同	圖
ル	ス	謂	ノ	何	ヲ	漢	ノ	画
閑	九	象	畧	口	ナ	其	昔	ノ
係	文	形	同	○	モ	閩	和	粉
ヲ	字	ナ	ヲ	ノ	カ	域	漢	彩
有	ノ	リ	以	用	ナ	ヲ	異	ニ
ス	起	肇	テ	ヒ	ル	知	其	若
レ	原	是	相	タ	ハ	ル	芳	カ
ト	及	即	視	リ	シ	可	躅	ス
モ	沿	回	ス	シ	又	ラ	ヲ	(能)
以	華	画	コ	形	ス	ス	同	我
篇	ハ	ノ	ト	狀	ト	死	ヲ	國
景	書	書	亦	必	ヲ	虽	シ	上
簡	字	日	自	セ	示	モ	天	代

ト	ハ	絶	佗	成	ト	成	レ	成	一
蚶	日	シ	ノ	以	雖	セ	テ	カ	科
蚪	用	ヨ	説	来	モ	リ	之	徒	ノ
籀	常	リ	ヲ	累	書	(紀)	ヲ	相	藝
文	行	持	用	家	畫	(分)	三	踵	ト
ヲ	ノ	明	井	ノ	ノ	(圓)	蹟	テ	ナ
尚	為	院	ス	庭	二	水	ト	起	リ
フ	ナ	ノ	(圓)	訓	道	邦	云	リ	爾
是	リ	家	其	一	ハ	諸	ノ	各	来
レ	然	法	後	箕	中	道	行	自	小
常	ル	勅	權	裘	古	專	成	其	野
行	ヲ	ニ	跡	シ	獨	ラ	實	法	道
ノ	後	依	ノ	紹	リ	ラ	ニ	ヲ	風
者	世	テ	嫡	キ	外	異	入	傳	藤
ニ	西	繼	流	此	法	邦	木	ハ	原
非	土	承	世	口	ニ	ノ	道	タ	佐
ス	ノ	セ	尊	傳	則	風	ノ	リ	理
若	法	リ	家	ノ	ラ	ヲ	創	後	藤
シ	ヲ	抑	ノ	外	ス	移	護	世	原
其	学	書	ノ	行	ス	ヲ	ヲ	槩	行

籍	疑	ナ	ハ	ヨ	其	即	ハ	字	鍾	嗣
ノ	リ	リ	年	リ	薨	我	魏	文	絲	カ
渡	容	是	五	五	年	紀	ノ	千	次	韻
来	レ	レ	十	十	ハ	元	大	及	因	本
セ	サ	繇	ノ	六	百	八	和	宣	堂	以
レ	ル	ノ	時	年	濟	百	四	堂	帖	前
ヨ	所	書	ニ	前	千	九	年	帖	等	ノ
リ	以	ヲ	作	ナ	字	十	薨	等	ニ	千
漸	ナ	百	レ	リ	文	年	シ	ア	ル	字
ク	リ	濟	ル	繇	ヲ	神	テ	ル	ヲ	文
漢	ト	ヨ	者	ハ	献	功	テ	ル	ヲ	爵
字	案	リ	ト	十	リ	皇	文	ル	ヲ	岡
シ	抑	貢	ス	十	シ	后	帝	ヲ	以	齊
以	應	リ	レ	歳	我	三	ノ	テ	テ	帖
テ	神	レ	ハ	ニ	應	十	時	知	王	墨
事	帝	ト	八	テ	神	年	ノ	ル	義	妙
ヲ	ノ	云	十	薨	帝	十	久	ハ	之	第
紀	朝	フ	六	レ	十	六	ナ	シ	書	四
ス	ニ	コ	年	タ	六	年	リ	シ	魏	晉
ル	漢	ト	前	レ	年	テ	魏	繇	魏	晉

千	定	事	ト	此	以	篇	ル	百	元	篇	易
字	ス	起	難	千	テ	ニ	紀	濟	九	ニ	シ
文	ハ	原	モ	字	故	緊	記	ヨ	百	護	要
ニ	レ	篇	ニ	文	ラ	要	何	リ	四	リ	ス
シ	其	ニ	可	ニ	ニ	ナ	晏	王	十	テ	レ
テ	說	讓	否	就	贊	ラ	集	仁	五	茲	ハ
興	ニ	リ	ハ	キ	セ	サ	解	ヲ	年	ニ	一
嗣	云	厘	此	古	ス	ル	本	来	即	畧	ニ
カ	古	ニ	編	来	ヲ	ル	ナ	貢	應	セ	文
次	事	一	ノ	區	ル	ア	レ	シ	神	リ	字
韻	記	說	緊	々	ハ	レ	シ	始	帝	テ	隨
ノ	謂	ヲ	要	ノ	シ	ハ	ト	テ	ノ	テ	書
者	ク	擧	ニ	說	ト	後	漢	論	十	法	ノ
ト	所	ケ	非	ア	云	漢	ノ	語	六	ノ	事
ハ	ノ	テ	サ	リ	說	ノ	石	及	年	ノ	事
異	者	以	レ	テ	ア	石	經	千	勅	ア	ア
レ	ハ	テ	ハ	一	リ	經	カ	字	ヲ	ラ	ス
リ	即	之	ハ	定	柳	蓋	或	文	奉	ニ	紀
其	繇	ヲ	ニ	セ	蓋	或	此	ヲ	シ	テ	紀
興	カ	是	学	ス	此	ハ	献	テ	テ	紀	紀

				大書	ラ祖	ノ国	掌	テ	ノ	即
				学ハ	其是	リ子	ル	相	被	書
				寮石	学ヨ	テ監	(令)	當	管	博
				職經	生リ	ハ	盖	從	ニ	士
				員說	ニ上	品六	是	七	大	ノ
				及文	兼品	以学	唐	位	学	權
				博字	習ノ	下ア	制	下	寮	輿
				士林	セ子	及リ	ニ	ノ	ア	ナ
				等ヲ	レ弟	度テ	摸	官	リ	リ
				ノ以	ルノ	人書	擬	ナ	其	其
				職テ	ル書	ノ学	セ	リ	被	後
				掌專	コ学	子其	ラ	專	撰	大
				即業	トハ	ノ五	レ	ラ	ニ	賢
				左ト	テ各	生ニ	タ	書	書	中
				ノス	リ学	タ居	ル	ツ	博	ニ
				如(六)	其ノ	ルリ	モ	教	士	至
					学博	者博	ル	ル	二	リ
					ノ士	ヲ士	コ	コ	人	式
					所等	教ニ	ト	ト	ア	部
					ノ自	ノ人	ノ	ノ	リ	省

大
官一等四
允助頭

二一人
一人
一人
少大

同同
掌畧

書	雖	生	既	國	ニ	ノ	間	此	丁
博	モ	ヲ	ニ	書	中	事	之	朝	行
士	其	聚	淡	学	葉	ア	ヲ	ヨ	ハ
百	人	ノ	海	ノ	以	ラ	用	リ	レ
濟	ノ	始	朝	淵	降	サ	井	モ	朝
末	氏	メ	ノ	源	頗	リ	シ	緬	野
士	名	テ	書	ヲ	其	シ	者	カ	始
善	ヲ	一	法	按	巧	コ	ナ	上	テ
信	詳	切	一	ス	拙	ト	リ	代	文
等	ニ	經	百	ル	ヲ	前	稜	ニ	事
ニ	セ	ヲ	卷	ニ	論	条	爾	ア	リ
白	ス	川	ア	今	ス	既	レ	リ	リ
銀	(紀)	原	リ	世	ル	ニ	ト	テ	(紀)
廿	尋	寺	(續)	ニ	ニ	叙	モ	民	盖
兩	テ	ニ	天	傳	至	ル	未	間	漢
ツ	特	寫	武	ハ	レ	カ	タ	ニ	字
賜	統	サ	帝	ラ	リ	如	書	於	ノ
ヲ	帝	シ	并	サ	爾	シ	法	テ	傳
(純)	五	ム	年	レ	ニ	爾	書	或	来
是	年	ト	書	ル	我	ル	論	ハ	ハ

模	テ	章	能	帝	源	後	草	越	峨
ト	最	天	書	ノ	信	其	書	ア	上
ナ	モ	下	シ	二	其	佗	ヲ	リ	皇
ヌ	二	死	以	子	弟	桓	學	畧	甚
後	王	比	テ	恒	弘	武	ヒ	性	草
且	ノ	草	著	貞	等	帝	玉	嗣	隸
詩	迹	隸	ハ	親	頗	ノ	フ	天	ノ
ニ	ア	ノ	ル	王	草	十	人	子	妙
精	リ	工	元	曾	隸	八	之	仁	ヲ
シ	後	ナ	承	テ	ニ	子	シ	明	得
ク	生	ル	和	佛	巧	良	別	帝	玉
白	書	一	中	門	ナ	岑	ツ	文	ヒ
樂	ヲ	古	道	ニ	リ	安	コ	藻	其
天	学	ハ	風	入	補	世	ト	ヲ	震
ト	フ	二	ノ	テ	三	嵯	ハ	愛	筆
越	者	三	祖	恒	仁	峨	ス	シ	字
ヲ	皆	ノ	小	寂	和	帝	ト	淳	勢
同	之	倫	野	ト	中	ノ	云	和	龍
ヲ	シ	ニ	篁	云	淳	皇	云	帝	盤
レ	印	レ	文	ヒ	和	子	フ	ノ	景

海	把	宅	又	葛	ノ	文	船	法	六
初	テ	嗣	書	野	跌	屋	筆	一	道
ノ	之	草	画	王	石	淨	墨	百	講
魚	ニ	隸	シ	少	ニ	三	シ	卷	シ
養	題	ニ	善	ク	書	書	以	崇	續
ニ	ス	妙	ク	レ	ス	法	テ	福	學
師	續	ニ	ス	テ	慶	ニ	尤	寺	尋
事	大	レ	佛	学	雲	巧	名	ニ	テ
レ	同	テ	寫	ヲ	中	ニ	ア	施	天
テ	中	山	天	好	大	レ	リ	入	平
書	朝	水	應	シ	女	藥	時	ス	勝
法	野	ニ	中	博	皇	師	長	續	寶
ヲ	魚	值	正	ク	子	寺	親	此	八
傳	養	ヲ	三	經	ノ	ヲ	王	時	歲
ハ	リ	毎	位	史	長	ル	ノ	方	淡
レ	或	ニ	大	ニ	子	佛	男	リ	海
リ	ハ	必	納	涉	從	足	從	淡	朝
ト	云	ス	言	リ	四	石	三	海	ノ
谷	空	筆	石	兼	位	碑	位	三	書
嵯		シ	上	テ	下				

テ	シ	三	シ	シ	相	風	行	ス	ハ
大	出	蹟	權	野	踵	美	レ	永	其
祖	レ	ト	跡	跡	テ	材	宣	延	真
ト	テ	呼	ト	ト	起	叔	レ	元	筆
ナ	後	ハ	唱	云	リ	姪	テ	年	ナ
リ	ニ	リ	ハ	ヒ	各	書	天	八	リ
白	一	(分)	又	佐	自	以	滿	月	ト
河	家	(圓)	入	理	其	テ	宮	五	云
鳥	ノ	行	水	ノ	法	鳴	天	日	ノ
羽	ヲ	成	道	體	ヲ	リ	神	始	(南)
ノ	ヲ	初	ト	ヲ	傳	藤	ト	テ	一
朝	傳	ノ	云	佐	ハ	原	云	北	旦
ニ	ハ	野	ヲ	跡	夕	佐	ハ	野	証
至	遂	跡	世	ト	リ	理	リ	聖	ラ
ル	ニ	ヲ	人	稱	爾	藤	(外)	席	レ
マ	入	慕	概	シ	未	原	同	祭	テ
テ	水	ヒ	シ	行	道	行	時	祀	筑
書	道	稍	テ	成	風	成	小	野	紫
ヲ	相	自	之	ノ	ノ	等	道	道	ニ
学	承	機	シ	法	書	等	道	執	薨

シ	眞	ニ	絶	シ	曾	林	ハ	以	實
奉	及	正	ト	書	テ	二	レ	テ	ニ
レ	都	シ	云	々	管	院	ト	聞	一
テ	良	竜	ノ	時	原	ノ	(三)	ニ	世
興	香	門	(鐘)	ニ	是	壁	仁	篁	ニ
福	ノ	寺	延	橘	善	書	寿	曾	冠
寺	眞	方	喜	廣	カ	ハ	中	テ	タ
縁	跡	丈	中	相	撰	即	藤	嘆	リ
起	其	ノ	贈	之	ス	其	原	レ	(江)
シ	西	室	太	カ	ル	筆	関	テ	同
書	扉	リ	政	序	所	ナ	雄	云	時
ス	ニ	リ	大	ヲ	ノ	リ	草	紀	肥
(撰)	ア	之	臣	為	高	(文)	書	三	後
又	リ	ヲ	管	ル	雄	負	ニ	郎	守
南	(扶)	仙	原	時	山	觀	妙	眞	紀
禪	道	房	道	人	神	中	ナ	書	夏
寺	眞	ト	眞	稱	護	藤	リ	ノ	井
ノ	曾	云	最	レ	寺	原	南	聖	隸
鐘	テ	ノ	書	テ	鐘	敏	池	ト	書
銘	勅	道	法	三	銘	行	雲	謂	ヲ

紀	一	武	レ	補	材	房	レ	フ
貫	體	帝	ム	ス	ハ	亦	ラ	者
之	ナ	朗	其	ル	今	嘆	真	皆
リ	リ	辨	音	者	ノ	シ	草	其
當	其	僧	生	得	草	テ	書	風
時	以	正	書	業	神	云	勢	ヲ
稱	後	光	生	生	ヲ	大	絶	寫
ノ	道	明	ハ	等	リ	原	テ	レ
繪	風	皇	博	ツ	ト	ノ	繼	タ
ハ	相	后	士	シ	江	居	カ	リ
巨	續	以	之	テ	延	易	ス	丹
勢	ス	下	ヲ	各	喜	ハ	痛	管
相	圓	美	試	其	ノ	古	哉	相
覽	降	材	ム	業	比	ノ	ト	國
書	テ	マ	式	從	學	詩	云	曾
ハ	天	テ	是	テ	生	聖	ヒ	テ
貫	慶	管	ヨ	之	ノ	食	釋	美
之	至	相	リ	シ	口	テ	大	材
ナ	リ	國	先	試	美	匡	江	ヲ
		尤	聖				匡	賞

ク	ア	ノ	レ	小	轉	レ	本	リ
ス	リ	自	仮	野	々	テ	ア	ト
ト	レ	筆	字	皇	シ	延	リ	云
雖	ナ	本	序	大	テ	喜	古	リ
モ	ラ	ハ	ア	后	終	帝	今	源
道	レ	帝	リ	宮	ニ	ノ	集	其
風	天	二	ト	ノ	燒	相	一	自
ト	曆	本	云	所	失	傳	木	筆
時	中	ノ	フ	藏	ス	ナ	ハ	堤
シ	大	レ	袋	タ	此	リ	陽	中
同	内	ヲ	然	リ	水	後	明	納
ウ	記	テ	レ	モ	ニ	頭	門	言
ス	藤	テ	ト	カ	ハ	綱	院	集
ル	原	其	モ	亦	序	ニ	ノ	及
カ	文	筆	今	灰	文	賜	所	古
故	正	ス	世	燼	ヲ	ハ	藏	今
ニ	頗	ル	傳	ニ	シ	リ	セ	和
其	書	所	ノ	属	一	漸	シ	歌
名	ノ	教	ル	ス	木	次	者	集
頭	能	本	所	是	ハ	ニ	ニ	二

等	ヤ	シ	今	野	章	如	世	其	ラ
ノ	シ	詳尚	サ	小	書	ク	ニ	ニ	仮
二	ハ	叙文	レ	町	書	云	暨	準	字
歌	延	ス章	ハ	カ	ク	傳	テ	ハ	書
シ	喜	ハ篇	是	姉	コ	ハ	益	省	ノ
以	ノ	シニ	コ	ノ	ト	タ	ハ	シ	摸
テ	比	又	リ	歌	ノ	ル	ハ	テ	楷
哥	已	仮	先	ノ	書	者	ハ	書	ノ
ノ	ニ	字	已	詞	見	ル	名	ク	如
父	行	リ	ニ	書	見	ハ	シ	コ	ク
母	ハ	以	行	ア	エ	ハ	以	ト	リ
ノ	レ	テ	ハ	ル	タ	レ	以	ノ	テ
如	シ	手	レ	リ	ル	仮	テ	ノ	テ
ク	者	習	シ	以	ハ	凡	草	普	固
シ	ニ	フ	コ	テ	承	仮	字	ク	有
手	レ	コ	ト	始	和	字	ノ	レ	ノ
習	テ	ト	類	ト	中	ノ	ノ	レ	草
フ	淺	ノ	推	セ	ニ	以	權	ル	仮
人	香	始	ス	シ	ヤ	テ	輿	故	名
ノ	山	ト	ハ	カ	小	文	ノ	後	ニ

无	ル	創	書	空	ヲ	歌	意	酌	中
比	コ	作	ハ	海	以	ニ	シ	シ	天
ノ	ト	者	多	カ	テ	製	演	夫	竺
草	シ	ニ	ク	滅	空	レ	テ	ノ	ヨ
聖	知	レ	變	後	海	リ	涅	草	リ
ト	ル	テ	體	凡	ノ	凌	槃	體	假
稱	ハ	草	ヲ	三	創	遺	經	ノ	朝
セ	レ	體	ル	十	叙	反	ノ	仮	ノ
ラ	但	ハ	見	三	ト	簾	四	字	後
レ	中	ハ	レ	年	云	雨	句	ニ	專
タ	古	は	ハ	ニ	ハ	レ	ニ	基	ラ
ル	佛	仮	ハ	生	ル	ト	當	キ	悉
空	ノ	字	空	レ	ハ	モ	テ	已	曇
海	隆	ノ	海	シ	歎	草	色	ハ	ノ
ノ	ナ	嚙	ハ	紀	性	字	ハ	奉	四
書	ル	矢	四	貫	非	即	句	ス	十
ナ	ニ	者	十	之	ナ	ハ	ハ	ル	七
レ	方	ニ	七	以	リ	ハ	ト	所	音
ハ	リ	非	音	下	碩	ハ	ノ	ノ	ノ
自	テ	ヲ	ノ	ノ	且	字	讚	法	斟

讀	草	凡	者	見	ヲ	家	一	ス	シ
ム	字	テ	宗	帝	伏	シ	流	後	定
(扶)	ノ	其	尊	其	見	成	リ	世	家
蓋	巧	書	親	妙	院	メ	起	法	流
上	拙	法	王	シ	流	ヲ	シ	帖	ト
代	ヲ	シ	近	極	ト	以	差	ト	云
ハ	以	上	衛	ノ	稱	テ	峨	ナ	ヒ
漢	テ	代	家	遂	ス	後	ノ	ス	後
土	和	流	熙	一	其	極	中	百	ニ
ノ	歌	ト	烏	流	宅	流	院	人	冷
書	者	唱	丸	一	後	ト	ナ	一	泉
法	流	ハ	資	創	京	名	レ	首	家
字	ノ	タ	慶	レ	極	ノ	障	是	ノ
格	重	リ	ノ	玉	良	文	子	ナ	相
ヲ	シ	後	徒	ノ	経	曆	ノ	リ	襲
學	ス	其	テ	ノ	モ	中	色	(明)	テ
ハ	ル	風	ノ	古	亦	藤	紙	(井)	學
ス	所	ノ	就	筆	別	原	形	(集)	ノ
專	々	慕	中	家	一	定	ヲ	其	所
ラ	リ	ノ	伏	以	一	家	書	流	ナ

初	ニ	草	後	日	年	其	時	ニ	初
ニ	草	後	世	今	八	い	凡	草	初
モ	仮	漢	漢	麻	月	ろ	テ	仮	ニ
レ	字	字	字	呂	ツ	は	仮	字	モ
ケ	ト	シ	シ	御	始	シ	字	ト	レ
リ	順	ノ	学	前	ト	手	ノ	順	ケ
(今)	序	草	フ	ニ	ス	習	書	シ	今
爾	シ	書	テ	參	ヘ	フ	セ	テ	爾
レ	テ	セ	専	シ	レ	コ	ル	ト	レ
ト	習	ル	ラ	勅	(江)	ト	者	ト	モ
モ	ヒ	者	千	ニ	其	ノ	ツ	ヒ	モ
先	レ	草	字	依	它	物	草	レ	先
片	者	仮	文	テ	久	見	仮	者	片
仮	ナ	字	ヲ	ハ	安	エ	字	ナ	仮
名	ラ	ト	用	ろ	六	シ	ト	ラ	名
次	レ	云	井	は	年	ハ	ハ	レ	次
ニ	(源)	云	レ	シ	正	天	云	(源)	ニ
真	(枕)	ヘ	ト	ハ	月	仁	ヘ	(枕)	真
字	(堤)	リ	モ	シ	十	二	リ	(堤)	字
次	當	當	古	(台)	二	二	當	當	次
行	四	ハ	後	日	年	其	時	ニ	初
ノ	月	唯	世	今	八	い	凡	草	初
八	皇	音	漢	麻	月	ろ	テ	仮	ニ
子	太	訓	字	呂	ツ	は	仮	字	モ
僧	子	ヲ	シ	御	始	シ	字	ト	レ
淨	御	主	学	前	ト	手	ノ	順	ケ
藏	讀	ト	フ	ニ	ス	習	書	シ	今
年	書	レ	専	參	ヘ	フ	セ	テ	爾
甫	始	テ	ラ	シ	レ	コ	ル	ト	レ
テ	ニ	讀	千	勅	(江)	ト	者	ト	モ
四	之	誦	字	ニ	其	ノ	ツ	ヒ	モ
歳	ヲ	ス	文	依	它	物	草	レ	先
ニ	讀	ル	ヲ	テ	久	見	仮	者	片
レ	ム	ノ	シ	ハ	安	エ	字	ナ	仮
テ	(三)	ニ	用	ろ	六	シ	ト	ラ	名
又	其	貞	井	は	年	ハ	ハ	レ	次
千	外	觀	レ	シ	正	天	云	(源)	ニ
字	三	十	ト	ハ	月	仁	ヘ	(枕)	真
文	善	七	モ	シ	十	二	リ	(堤)	字
ヲ	清	年	古	(台)	二	二	當	當	次

フ	ナ	額	ノ	シ	一	門	玉	青	流
又	リ	ハ	書	後	流	ノ	ト	蓮	後
和	シ	即	シ	柏	ヲ	三	遂	院	陽
哥	ノ	經	世	原	創	院	勅	ノ	成
所	筆	朝	尊	院	レ	並	筆	流	院
ノ	一	少	寺	流	後	ニ	流	派	ノ
法	種	筆	流	ト	奈	其	ノ	ト	猶
印	字	ナ	ト	ハ	良	流	ノ	ナ	子
堯	體	リ	云	正	正	ヲ	祖	ノ	尊
孝	豐	磧	フ	應	親	学	ト	又	純
永	肌	中	伊	中	町	ヒ	ナ	後	法
享	ナ	院	勢	行	ノ	後	ル	圓	親
中	リ	中	國	成	二	柏	後	融	王
ニ	之	納	伊	ノ	院	原	小	院	ノ
名	ヲ	言	奈	裔	其	院	松	最	尊
リ	通	通	富	經	派	之	稱	書	純
之	村	村	神	朝	ニ	シ	光	法	流
ヲ	流	葉	社	ノ	出	承	後	ニ	等
堯	云	集	ノ	族	ツ	テ	土	達	之
		萬	扁	等	之	又	御	シ	ヲ

親	皇	蓮	王	其	流	子	多	博	リ
町	子	院	ノ	流	ノ	青	ク	士	當
院	青	尊	学	種	祖	蓮	五	明	時
ノ	蓮	應	ヲ	々	ト	院	位	經	尚
猶	院	准	所	ニ	ナル	十	以	ノ	書
子	尊	后	ヲ	變	ル	七	上	末	博
伏	鎮	ノ	尊	派	廉	世	ニ	儒	士
見	法	筆	道	レ	古	尊	任	官	ノ
宮	親	ヲ	流	テ	筆	圓	セ	ニ	名
ノ	王	尊	ト	後	家	法	リ	テ	ノ
皇	ノ	應	レ	伏	其	親	延	書	ト
子	法	流	撰	見	筆	王	元	儒	モ
尊	ヲ	ト	改	ノ	法	最	ノ	ト	職
朝	尊	云	二	皇	ヲ	能	際	下	其
法	鎮	々	條	子	尊	書	伏	ヲ	實
親	流	後	持	尊	圓	ニ	見	レ	ナ
王	ト	柏	基	道	流	テ	帝	延	シ
ノ	云	原	ノ	法	ト	テ	第	喜	シ
尊	ヒ	院	男	親	稱	御	六	以	蓋
朝	正	ノ	青		ス	家	皇	後	書

正	言	山	ノ	流	一	ヨ	筆	部	認
中	中	城	書	ヨ	流	リ	ナ	傳	知
世	御	瀧	後	リ	成	レ	リ	内	セ
尊	門	本	世	分	ス	テ	近	ノ	シ
寺	宣	坊	目	派	之	加	世	創	カ
宰	胤	昭	ノ	ノ	之	茂	傳	ス	為
相	入	乘	呼	光	ノ	流	内	ル	ニ
行	木	ノ	ハ	悦	鳥	リ	流	所	古
季	道	書	ル	流	養	リ	ト	ニ	筆
世	ノ	リ	ナ	リ	流	加	稱	係	五
ニ	派	大	リ	創	ト	茂	ス	ル	代
行	リ	師	又	レ	云	ノ	ル	以	了
ハ	テ	流	木	揚	フ	祠	者	上	佐
レ	著	ト	阿	州	又	官	ハ	皆	ノ
文	ハ	稱	彌	鳥	尊	幕	古	頃	頃
明	ニ	ス	光	養	圓	府	人	ヨ	リ
中	宣	ル	悦	ノ	流	木	ノ	定	定
權	其	ハ	近	人	ノ	敦	筆	ハ	ハ
大	後	空	衛	宗	末	直	跡	ル	ル
納	海	海	衛	慶	派	ノ	建	ノ	ノ

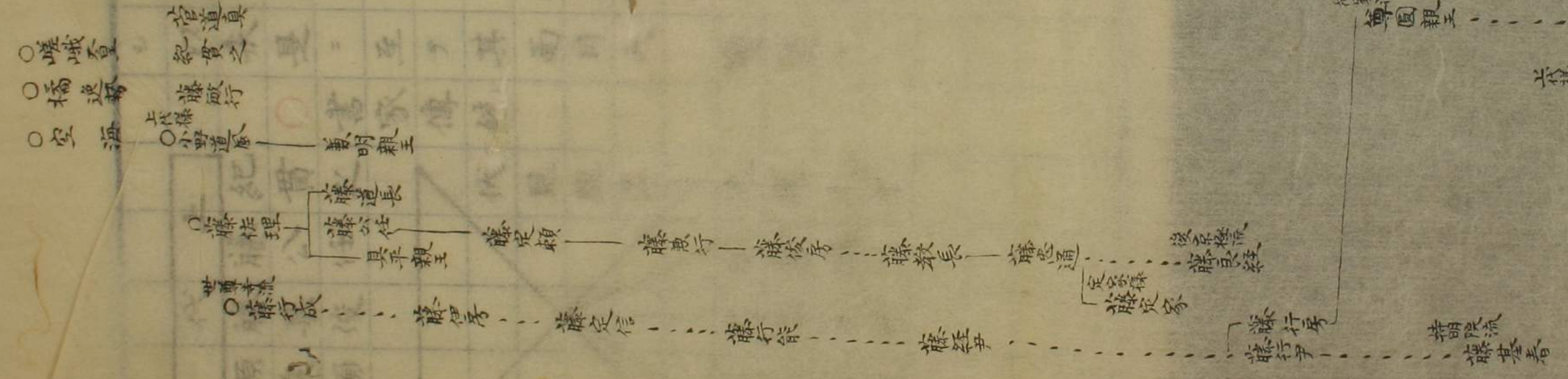
孝	野	雅	二	門	後	三	龜	文	出
流	天	親	樂	ナ	信	條	中	中	ト
ト	神	ノ	流	リ	尹	西	連	宗	云
云	勸	筆	シ	近	至	賈	哥	鑑	ク
文	請	シ	創	衛	テ	隆	師	ハ	是
明	ノ	飛	ス	尚	テ	ノ	宗	流	レ
中	時	鳥	足	通	近	三	祇	等	皆
甘	卅	井	利	亦	衛	條	ノ	リ	連
露	六	流	義	此	流	流	宗	而	歌
寺	人	ト	尚	流	或	ハ	祇	ノ	者
親	ノ	稱	大	ヨ	ハ	實	流	ノ	流
長	歌	レ	内	リ	三	尊	丹	ノ	募
書	シ	其	義	出	藐	鎮	牡	流	倣
ニ	書	庶	隆	テ	院	流	花	ハ	人
工	ス	流	武	尚	流	ノ	肖	ノ	ノ
ニ	親	二	田	通	ト	派	柏	所	ノ
ノ	又	樂	元	流	云	リ	ノ	テ	テ
曾	飛	軒	光	リ	リ	リ	塚	リ	リ
テ	鳥	雅	等	起	其	文	流	ノ	ノ
北	井	康	其	ス	他	天	天	永	永

江東戸石... 澤田... 親和輩出... 儒士詩人... 一變... 摺鎌...

始マレリ(哲)諸近時市川三亥卷菱湖等、筆法世

書法畧系

人名と高下アル、其時代、前後ヲ示シト...
 直、其後ウ業ケシトト中間隔タリシトトヲ区別スル



流 藤行成 後京極院流 藤原良経

東京学生会院雑誌 第十四編 之九

文字ヲ改換シ文法ヲ起サント欲セハ先音ヲ正シ文字ヲ定ムルヲ急
ルナシ夫吾國ノ音タニ五十音ノ清濁七十五音コレテ千萬ノ言辭ハ皆
此音ヲ生スル者ナリ先此音ヲ正サスレハ凡可ラス若此音ヲ正サント欲
セハ此音ニ適當スル文字ヲ定ムルハ凡可ラス此音ニ適當スル文字トハ
二母韻子韻ノ別アル如ク文字モ亦判然其別ナクレハ凡可ラス今吾
國ノ假名ヲ以テ之ニ當レハ七十五ノ内アルイウエオノ五字ヲ母韻字トナシ殘
七十ヲ子韻字トナサスレハ凡可ラス今西洋諸國ノ例ニ就キテ考フルニ子
韻トハ母韻ト合テ始メテ全キ音ヲナス者ナリ然レニ此七十字ハ已ニ全キ
音トナリタレハ則チ子母相合セタル者コレヲ推子韻字トシ云フ可ラス然レハ則
チ母韻字ト子母相合セタル字トアリテ更ニ子韻字ハアルナリ故チヤリヤ
等ノ拗音皮^シ^リ^ル^ル^ル判然タル能ハス之ヲ適當ノ文字ト云
フ可キヤ夫子韻トハ今カ行ニ就キテ之ヲ云ハレカキケコノニ白ハ未カト
モ判トモ全キ音トナラザレハ元音アルナリ此音ニ適當スル文字即チ子韻
字ナリ此元音アルイウエオノ母韻ト合セテカキケコノ全音トナナリ也
此ノ行モ皆之ニ同シ故チ此ノ如キ子韻十四アリ之ニ母韻ヲ合セラ十九ノ元
音アルナリ此元音子母相配シテ七十五音トナル夫此ノ如クコレテ後母韻
子韻ノ別判然トシテチヤリヤ等モ分明トナス可ク^シ^ル^ル^ル音モ子母
配合ノ理ニ就キテ之ヲ唱フレハ自然分明ナルヲ得ルナリ故チ吾國ノ辭
ヲ正シ文法ヲ脩メト欲セハ先母韻子韻十九ノ元音ヲ正シ之ニ適當ス
ル文字ヲ定ムルヲ急ムルナシ是吾國ノ言辭ノ元素ナレハナリ此元素已
ニ定マレハ則チ五十音ハ自然ニ定ルナリ五十音已ニ定ムルハ必チ辭ヲ綴ルルハ
古來一定ノ假字用格アルニ依ルヘシ故チ文字ヲ定ムルハ則チ
二語ノ種類ヲ定ムルニ

大藏省

